

市原市稲荷台遺跡（R地点）・  
市原古道遺跡

2023

株式会社 D - 1  
市原市教育委員会



いなりだい  
市原市稲荷台遺跡（R地点）・  
いちはらこどう  
市原古道遺跡

2023

株式会社 D - 1  
市原市教育委員会



## 例言

- 1 本報告書は、千葉県市原市藤井一丁目193番4に所在する稲荷台遺跡（R地点）・市原古道遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、駐車場造成に伴い、株式会社D-1の委託を受け、千葉県教育委員会の指導のもと、市原市埋蔵文化財調査センターが実施した。
- 3 発掘調査は開発範囲1,406.83㎡のうち、180.99㎡を対象として実施した本調査である。これは令和4年度に市原市の国庫補助事業として埋蔵文化財調査センターが実施した140.683㎡の確認調査の結果を受けたものである。
- 4 発掘調査・整理作業は以下のとおりに行った。

確認調査	令和4年8月1日～令和4年8月12日	担当	鈴木宏和・川上知哉
本調査	令和4年10月3日～令和4年10月28日	担当	川上知哉
整理作業	令和4年11月1日～令和5年3月17日	担当	川上知哉
- 5 本書の執筆は川上知哉が行った。
- 6 稲荷台遺跡（R地点）・市原古道遺跡の調査コードはセ599（確認調査）・セ601（本調査）である。
- 7 出土遺物と記録類は、市原市教育委員会教育振興部文化財課埋蔵文化財調査センター（千葉県市原市能満1489）で収蔵・保管している。
- 8 図版2・3はAgisoft Metashape Professional（64bit）ver.1.5.2により作成した。
- 9 平面図及び土層断面の「K」は攪乱を示している。
- 10 土器の器面色調については、小山正忠・竹原秀雄『新版標準土色帖』日本色研事業株式会社による。
- 11 遺物写真図版の縮尺は、基本的に実測図に準じる。
- 12 挿図におけるスクリーン・トーン・遺物表示の用例は下記による。

## 凡例

遺構（平面図及び断面図）	遺物
 焼土	● 遺物点（土器）
 硬化面範囲	○ 遺物点（土製品・瓦）
	★ 遺物点（金属）
	 赤彩
	 灰釉
	 灰釉断面
	 中世・近世陶器

## 本文目次

1	調査に至る経緯	1
2	遺跡周辺の環境地理的環境	1
3	調査の成果	2
	(1) 調査概要	2
	(2) 遺構と遺物	2
	道路跡	4
	溝状遺構	13
	竪穴建物跡	13
	土坑・ピット	14
4	まとめ	14

## 挿図目次

第 1 図	稲荷台遺跡(R地点)・市原古道遺跡及び周辺遺跡位置図	2
第 2 図	稲荷台遺跡(R地点)・市原古道遺跡周辺地形図	3
第 3 図	稲荷台遺跡(R地点)・市原古道遺跡調査区全体図	4
第 4 図	SD01(第I期)遺構図	5
第 5 図	SD01(第II・III期)、Pit02 遺構図	6
第 6 図	SD01(第IV・V期)遺構図	7
第 7 図	SD01 土層断面図	8
第 8 図	SD01 土層説明、Pit02 土層断面図	9
第 9 図	SD02、SK04 遺構図	10
第 10 図	SD02、SK04 土層断面図	11
第 11 図	SI01、SK03、Pit01・Pit03 遺構図・土層断面図	12
第 12 図	SK01・SK02 遺構図・土層断面図	13
第 13 図	SD01(1) 遺物実測図	16
第 14 図	SD01(2)・SD02・SI01・SK04・調査区出土 遺物実測図	17

## 表目次

第 1～5 表	出土遺物観察表	18・19
第 6 表	非掲載遺物一覧表	20

## 図版目次

図版 1	稲荷台遺跡周辺航空写真
図版 2	調査区全体 3次元データ
図版 3	SD01・SD02 3次元データ
図版 4	遺構 調査前状況、SD01 SD02 SI01 SK04
図版 5	遺構 発掘現場状況、SD01 Pit02
図版 6	遺構 SD02 SI01 SK03
図版 7	遺構 SI01 SK01 SK04 Pit01
	遺物 SD01 SD02 SK04
図版 8	遺物 SD01 SD02 SI01 調査区出土

## 1 調査に至る経緯

今回の発掘調査は千葉県市原市藤井一丁目193番4における駐車場造成に伴い実施したものである。

株式会社D-1は駐車場造成に先行して、令和4年6月27日付けで、文化財保護法第93条第1項の規定に基づく「埋蔵文化財発掘の届出について」を千葉県教育委員会教育長及び市原市教育委員会教育長宛に提出した。

届出を受けて市原市教育委員会が試掘を実施した結果、遺構と遺物が検出されたため、事業範囲の内1,406.83㎡を対象に、市原市教育委員会が国庫補助事業として確認調査を行った。

確認調査の結果に基づき、株式会社D-1と千葉県教育委員会及び市原市教育委員会との協議を行い、現状保存が困難な180.99㎡を対象として今回の本調査を実施することとなった。

## 2 遺跡周辺の環境地理的環境(第1図)

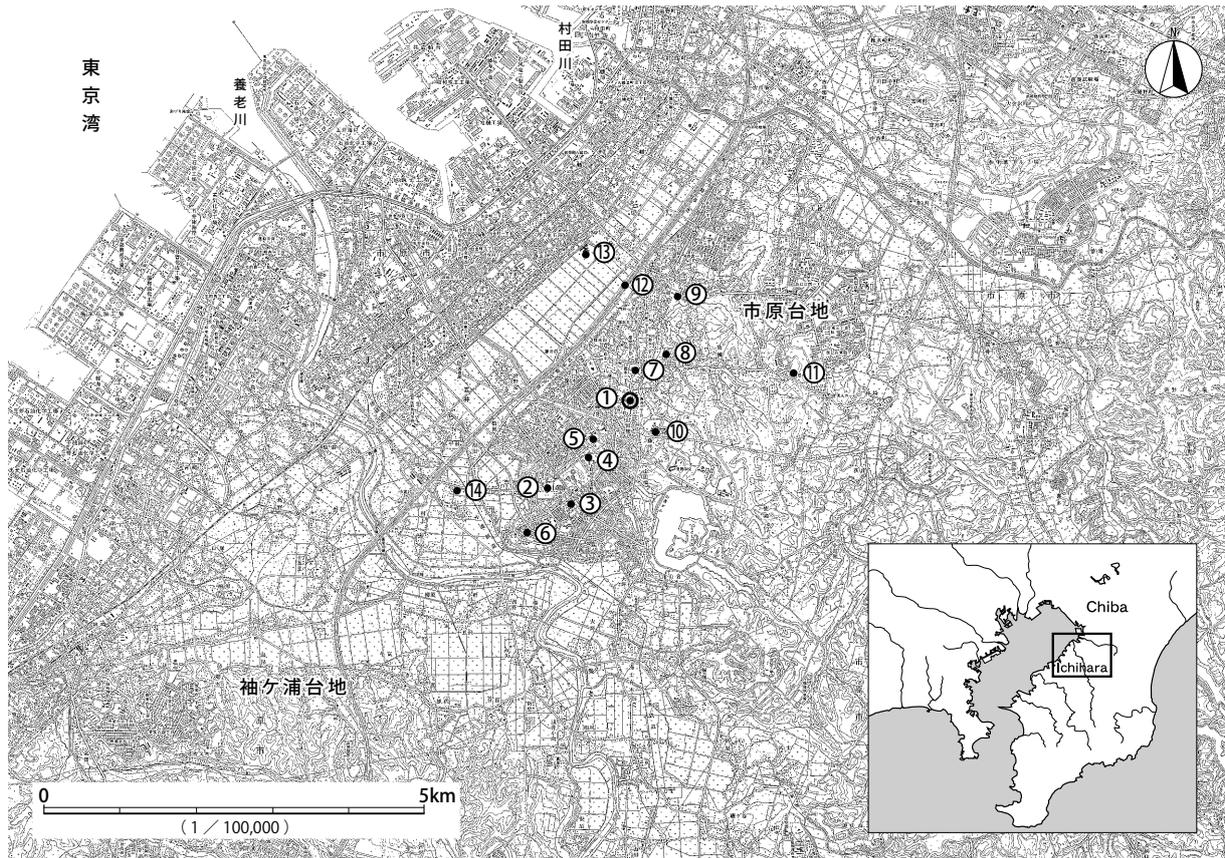
稲荷台遺跡(R地点)・市原古道遺跡は、東京湾の旧海岸線から約3.5km内陸の標高27mほどの台地上にある。この台地は、村田川と養老川に挟まれた「市原台地」を構成する、南北に延びる樹枝状台地のうちの一つである。

稲荷台遺跡は通称「国分寺台遺跡群」の東端に位置する。上総国分尼寺跡やこれに関連する坊作遺跡は、調査区から小支谷を挟んで南西500mほどの場所に展開する。調査区は、稲荷台遺跡の中では北東隅に位置する。稲荷台遺跡は、その建物構成や配置、犠牲獣を伴う祭祀遺構、出土遺物の特殊性から官衙関連遺跡と考えられている。その拡がりの東端を区画規定するラインが、今回の調査区を含む、市原古道遺跡(=古代道・古代官道などと通称される)である。

さらに調査区北東0.9～2.0kmの範囲には、市原郡衙推定地で上総国府推定地の一つでもある郡本遺跡群や古甲遺跡、国分寺成立以前の四葉単弁蓮華文軒丸瓦が出土した光善寺廃寺跡が所在する。東方0.4kmには廃寺跡を伴う千草山遺跡が、同2.4kmには古代寺院跡と考えられ蔵手刀が出土した南大広遺跡などがある。湾岸の沖積地には古道を検出した市原条里制遺跡や、古道と多数の木器が出土した五所四反田遺跡が存在する(第1図)。

稲荷台遺跡は、これまで数回にわたって発掘調査が実施されている。今回調査区の北方約75mに位置するJ地点では最大掘り込み上面幅14.8mを計る平安時代～中世の道路跡や平安時代の竪穴建物跡が検出されている(牧野2003)。同様に南方約100m地点に位置するH地区、南方約200m地点に位置するG地区からも道路跡が検出されており、出土遺物から9世紀第2四半期まで時期が遡ると考えられる(浅利ほか2003)。またこの道路跡の南延長はR地点から南方約400mの亥の海道遺跡の地点で南東方向に向きを変え(田所1996)、その延長は山田橋表通遺跡、山田橋大塚台遺跡、山田橋大山台遺跡で確認されている(浅利ほか2003)。今回の調査で確認された道路跡はこれらと接続する遺構であると考えられる。

加えて、R地点から南西約100mに位置するE地区では、四面廂付建物跡を含む掘立柱建物跡群や、複数の祭祀関連遺構が検出されている。また、37号住居跡からは、内面に連筆された「月」の文字と外面に貞観17(875)年の紀年銘を持つ墨書土器が出土した。調査区内からは大量の緑釉陶器も出土しており、官衙関連遺跡と考えられている(浅利ほか2003)。



- ① 稲荷台遺跡 (R地点)・市原古道遺跡 ② 上総国分僧寺跡 ③ 荒久遺跡 ④ 上総国分尼寺跡 ⑤ 坊作遺跡 ⑥ 諏訪台古墳群 ⑦ 郡本遺跡群  
 ⑧ 古甲遺跡 ⑨ 光善寺廃寺跡 ⑩ 千草山遺跡 ⑪ 南大広遺跡 ⑫ 市原条里制遺跡 (市原地区) ⑬ 五所四反田遺跡 ⑭ 村上遺跡群

第1図 稲荷台遺跡(R地点)・市原古道遺跡及び周辺遺跡位置図

### 3 調査の成果

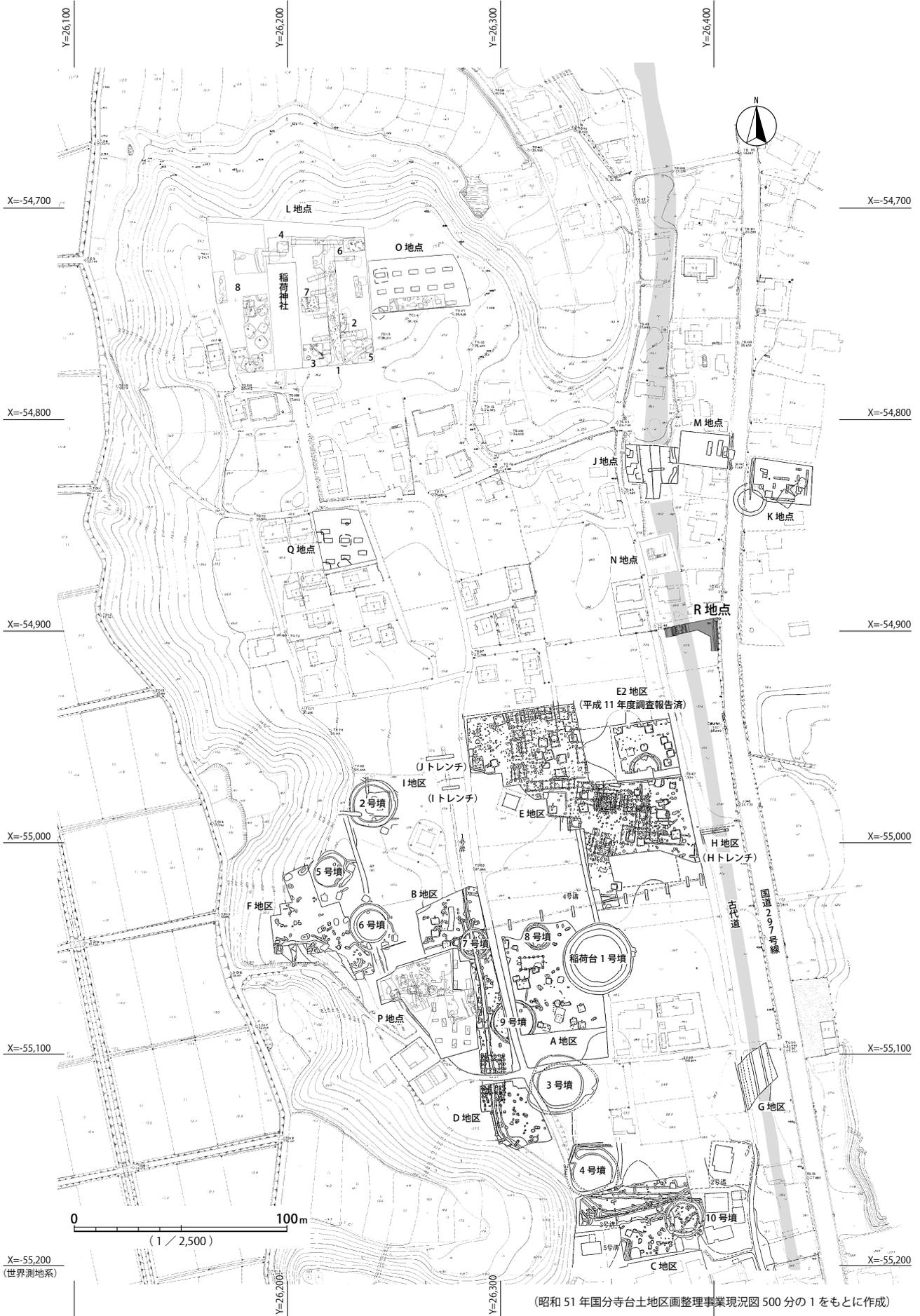
#### (1) 調査概要 (第3図)

今回の調査は確認調査の結果を受けて実施したR地点 180.99 m<sup>2</sup>の調査である。調査前の現地は畑地であった。測量基準点は座標値(世界測地系)を使用し、方眼杭を打設した。表土は重機により除去し、遺構プランを確認した。調査区東側では表土から遺構検出面までの深度は浅く約0.2mであった。また西側では表土から約0.7mの地点で道路跡の覆土を検出した。遺構の保存状況は、畑の耕作により、調査区中央部の表土及びローム層が攪乱を受けている外は比較的良好だった。

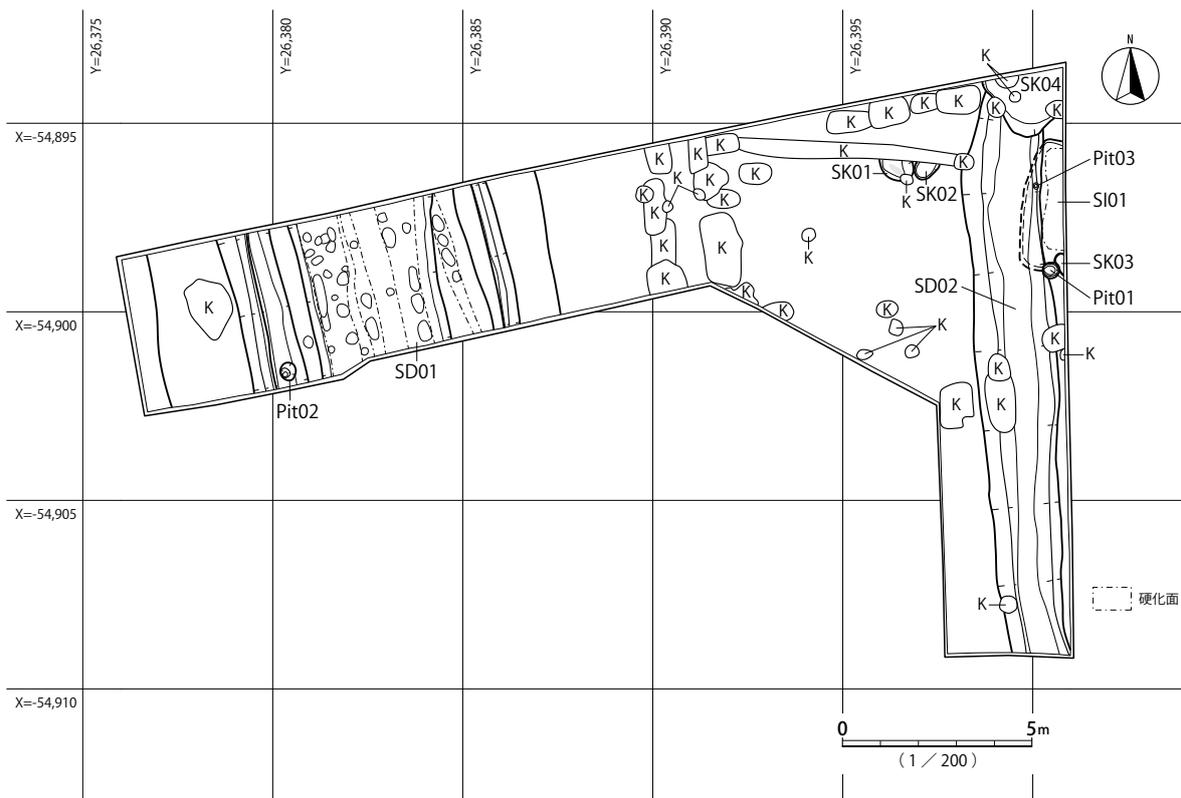
調査方法として、検出された遺構はサブトレンチを設定し層序を確認した後に層位ごとに掘り下げを行った。遺物・遺構の記録については遺構実測支援システム(遺構くんcubic)を使用した。出土遺物の内、小破片については層位ごと、または遺構ごとに取り上げた。

#### (2) 遺構と遺物

調査の結果、平安時代から中世にかけての道路跡1条、同時期のピット1基、平安時代に属すると思われる竪穴建物跡1棟、近世の溝状遺構1条、近世以降に形成されたと考えられるピット1基・土坑4基が検出された。



第2図 稲荷台遺跡(R地点)・市原古道遺跡周辺地形図



第3図 稲荷台遺跡(R地点)・市原古道遺跡調査区全体図

## 道路跡

SD01 (第4～8図、図版3～5)

調査区西側に位置し、走行は南北方向である。さらに南北方向に窪みを形成する凹型の道路であり、底部付近から3段階に分かれて硬化面が検出されている。また底部のローム層をさらに主に楕円形に掘り窪めた跡が確認されていることから、道路跡は3層の硬化面の上位、下位の層段階を含めて5段階(第I～V期)に分けられると考えられる。

### ●第I期(第4図、第14図28・29、図版8)

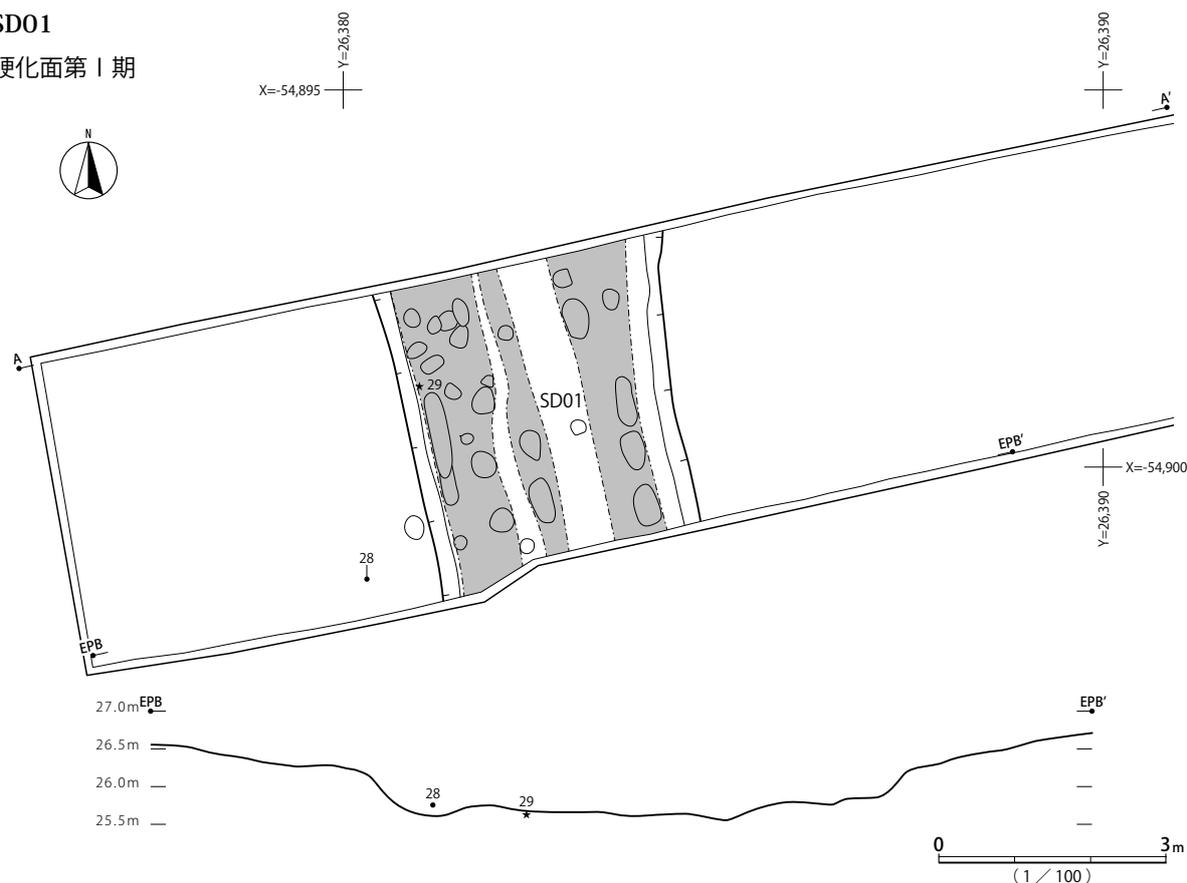
幅7.4mの規模でロームを掘り込み、底面の幅約3.4m、標高約25.6mの部分が最も古い時期に使用された道路跡と考えられる。路面には径0.1～1m、深さ0.02～0.15mの円形もしくは楕円形のピットを配し、中には道路跡の走行と直行するものも確認される。充填土は灰色の硬質粘土状であり、路面直上に薄く堆積していた硬化面と同様であることから道路初期段階に構築され、その後埋没した遺構であると考えられる。ピット充填土の中からは遺物は発見されていないが、その配置から道路状遺構に散見される「波板状凹凸面」と推察される。

出土遺物は中世の常滑産陶器甕28、椀型滓29が出土している。

### ●第II期(第5図、第14図25～27、図版8)

道路跡の第I期における「波板状凹凸面」が埋没した後に使用された時期と考えられる。底面の幅

SD01  
硬化面第Ⅰ期



第4図 SD01(第Ⅰ期) 遺構図

約6m、掘り込み上面からの深さ約1.3mを計り、東西端には道路の走行に並行して幅約0.5m、深さ約0.1mの側溝が検出された。また道路西側の側溝には径0.45m、深さ約0.6mの円形を呈するPit02(第5図、図版5)が確認された。埋土の中から出土遺物は確認されていないため、時期・用途は特定できないが、側溝の路面を直接掘り込んでいること、さらに埋土の様相が側溝の埋土と類似していることから構築時期は側溝と同じであると推測される。加えて東側側溝の西隣に走行が南北方向の硬化面と波板状凹凸面が検出された。この凹凸面は第Ⅱ期に道路幅を拡張した後にローム上に形成されたものであると考えられる。

出土遺物は灰釉の手付瓶25、渥美産陶器甕26、一部砥石転用されている平瓦27が出土している。

●第Ⅲ期(第5図、第14図19～24、図版8)

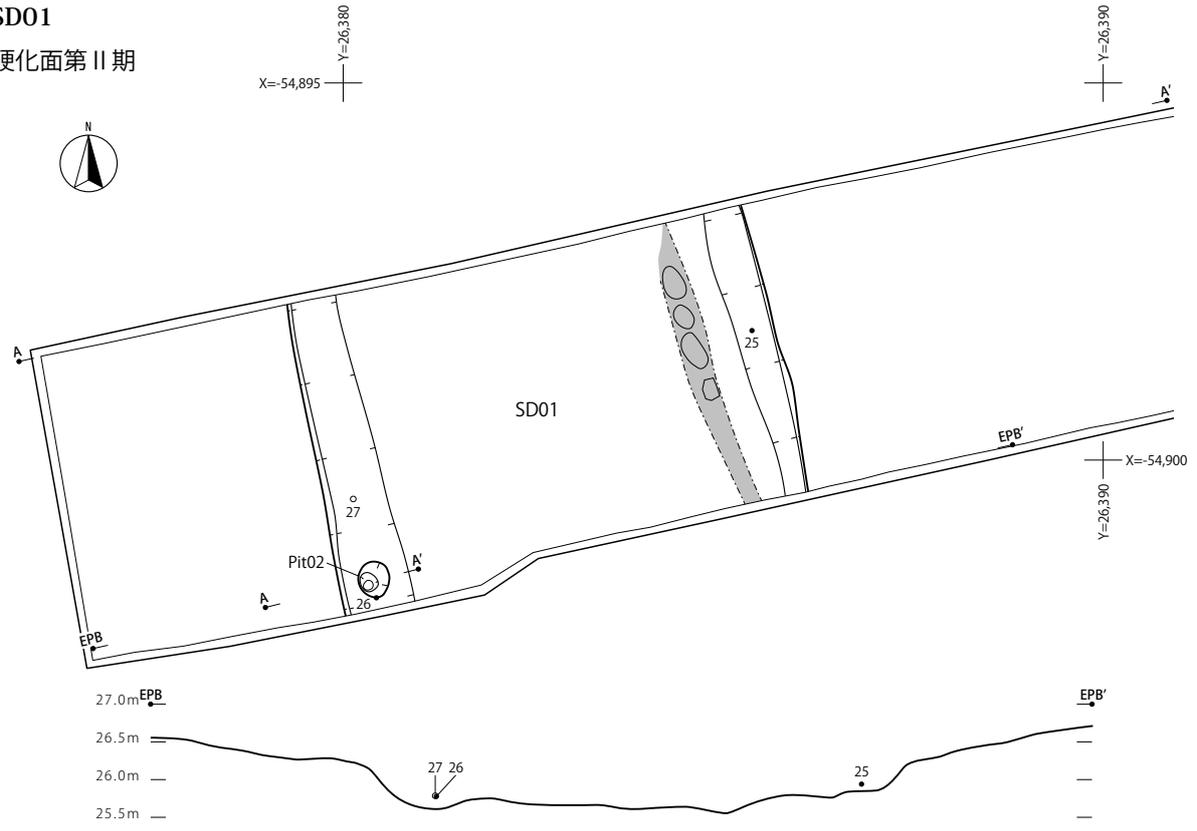
道路跡の第Ⅱ期における側溝及びPit02が埋没した後に使用された時期と考えられる。底面の幅は約6.2m、掘り込み上面からの深さ約1.2mを計る。この時期に属すると思われるその他の遺構は確認されていない。

出土遺物は千葉産須恵器甕19・20、須恵器甕21、中世土器カワラケ22、常滑産陶器片口鉢Ⅱ類23、渥美産陶器甕24が出土している。

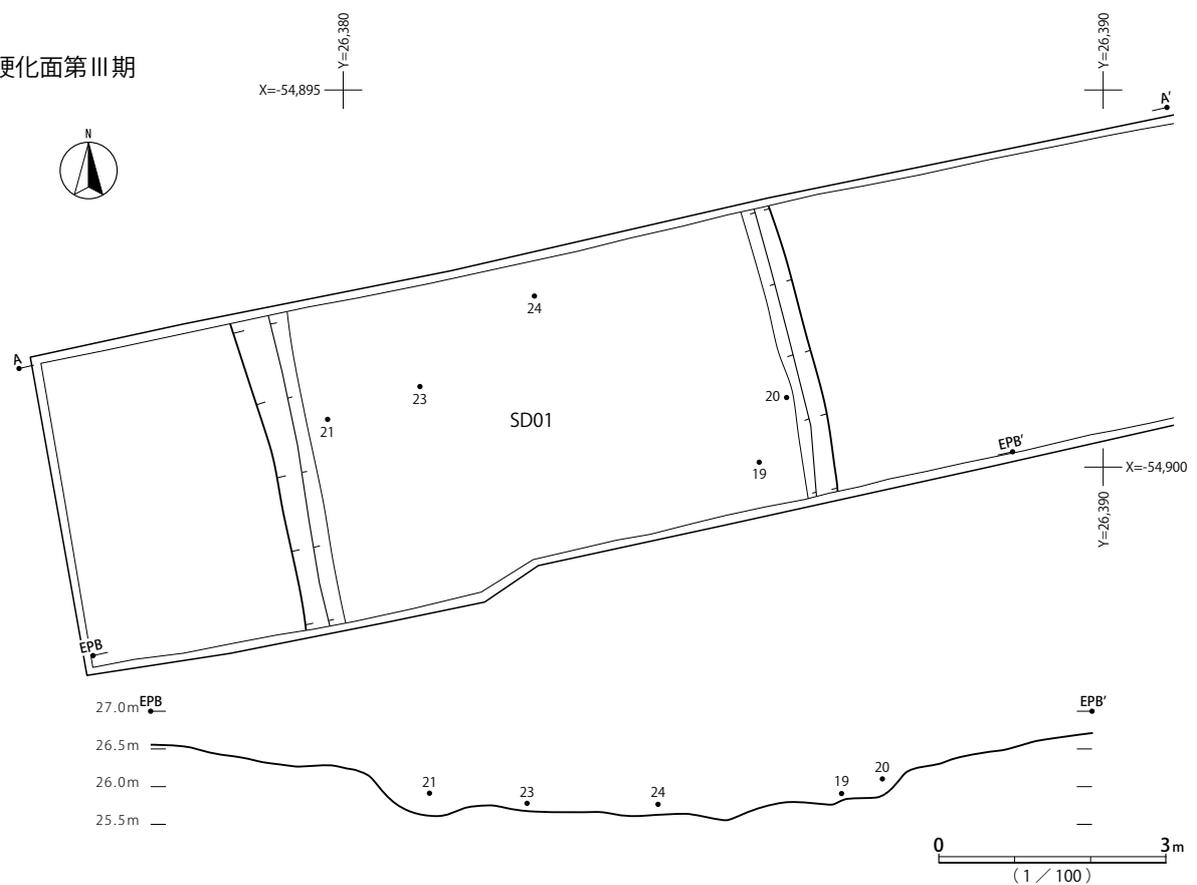
●第Ⅳ期(第6図、第13図14～18、図版8)

道路跡として使用された最終段階と考えられる。底面の幅は約6.2m、掘り込み上面からの深さ約

SD01  
硬化面第Ⅱ期

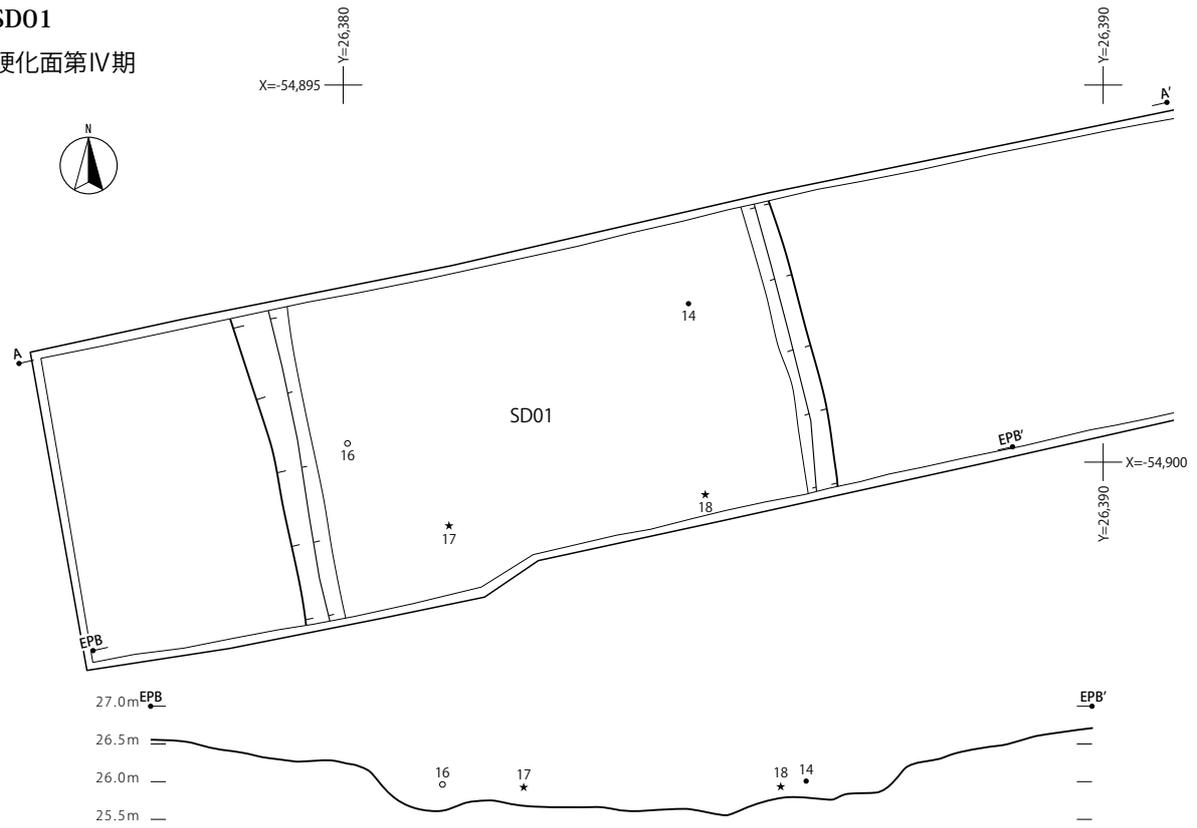


硬化面第Ⅲ期

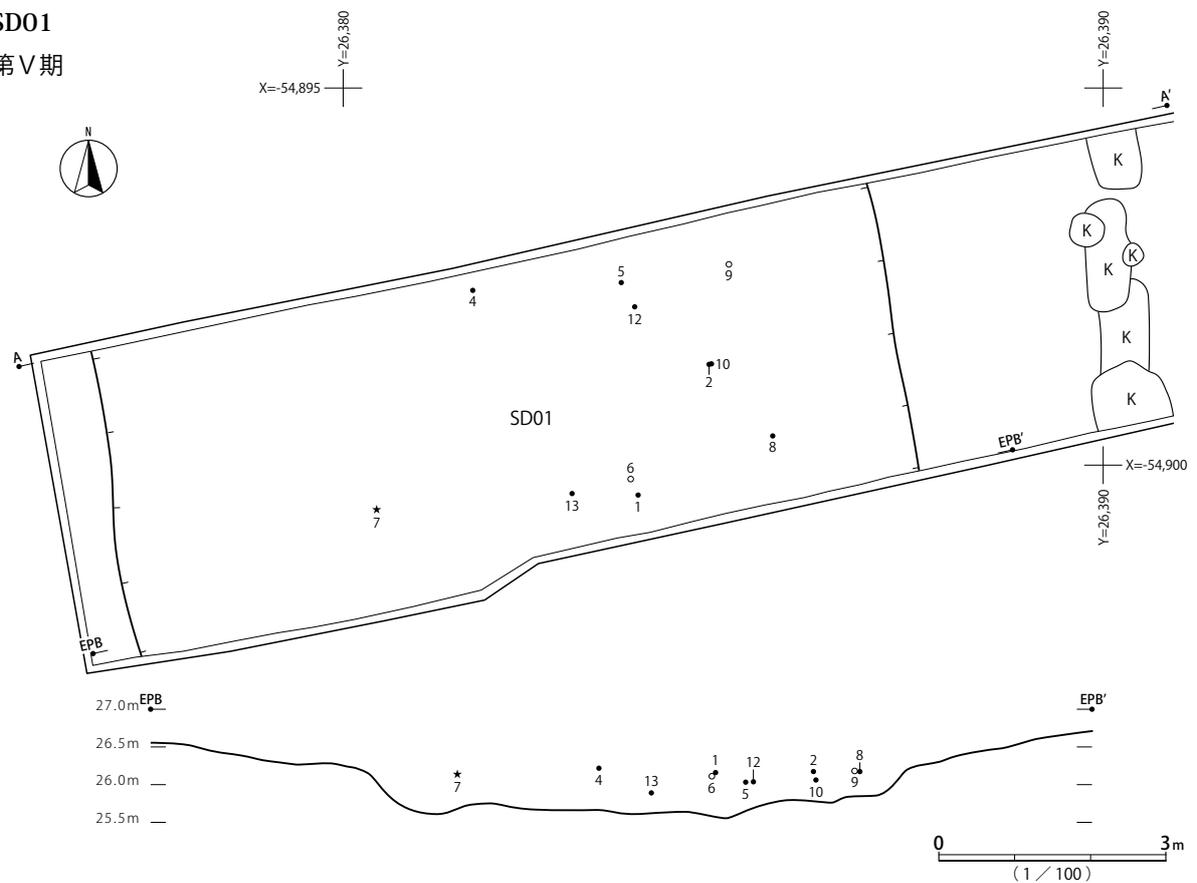


第5図 SD01(第Ⅱ・Ⅲ期)、Pit02 遺構図

SD01  
硬化面第IV期

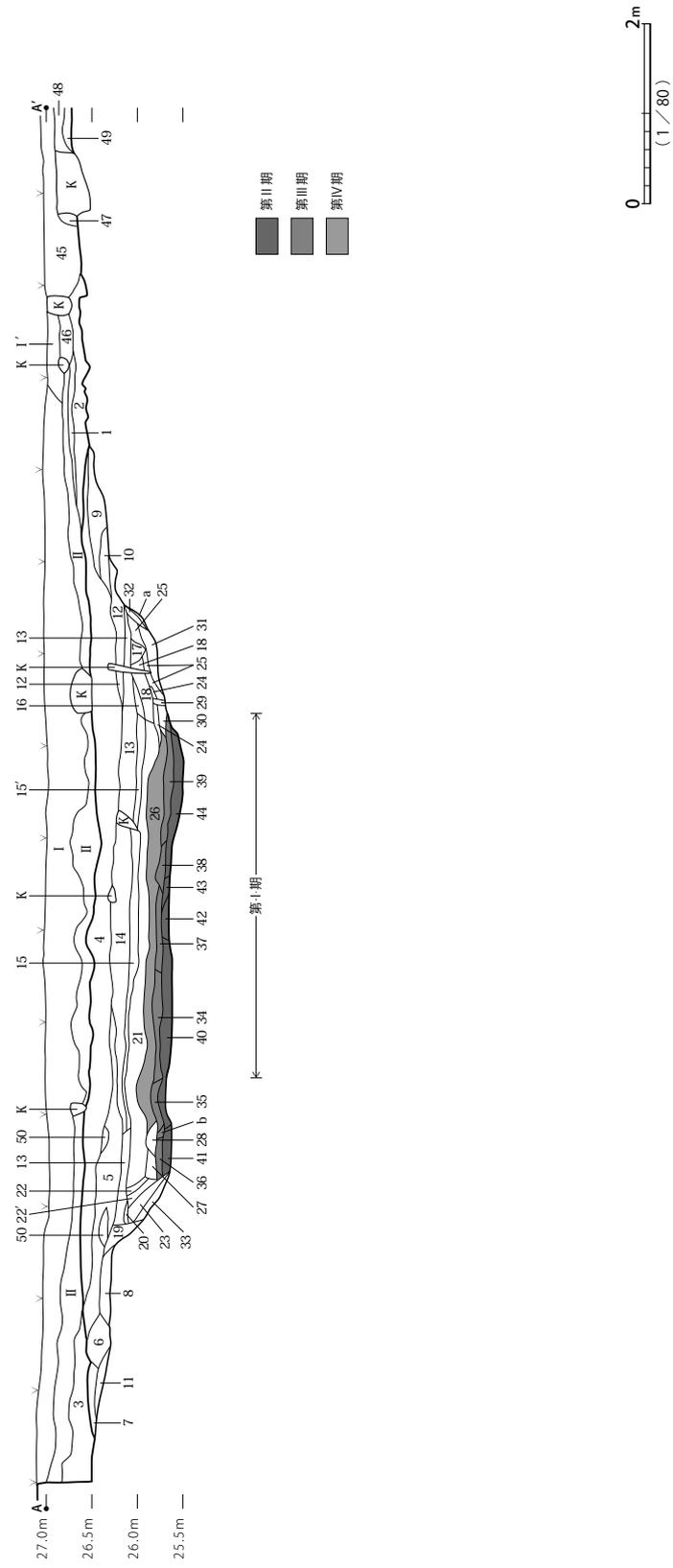


SD01  
第V期



第6図 SD01(第IV・V期) 遺構図

SD01

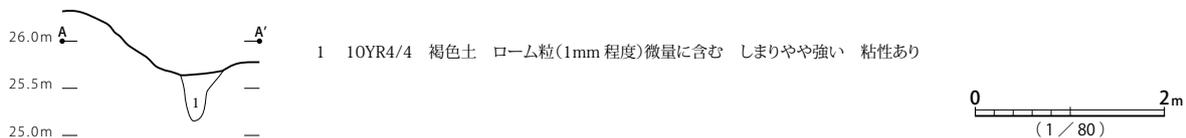


第7图 SD01 土层断面图

SD01

- I 10YR4/2 灰黄褐色土 ローム粒(3～5mm)、炭化物粒多く含む しまり強い 粘性なし
- I' 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒(1～5mm)、焼土粒、炭化物粒多く含む しまり強い 粘性なし
- II 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒(1～3mm)、炭化物粒多く含む しまりやや強い 粘性なし
- 1 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒(1～5mm)、ロームブロック(5～10mm)、炭化物粒含む しまりやや強い 粘性なし
- 2 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒(1～5mm)、ロームブロック(5～10mm)、炭化物粒多く含む しまりやや強い 粘性なし
- 3 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒(1～3mm)、炭化物粒含む しまりやや強い 粘性なし
- 4 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒(1～5mm)多い、焼土粒(1～3mm)少量含む しまりやや強い 粘性なし
- 5 10YR4/4 褐色土 ローム粒(1～5mm)、ロームブロック(5～10mm)、炭化物粒多く含む しまりやや強い 粘性なし
- 6 10YR4/4 褐色土 ロームブロック(10～20mm)多く含む しまりやや強い 粘性なし
- 7 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒(1～5mm)多く含む しまりやや強い 粘性なし
- 8 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒(1～5mm)、焼土粒含む しまりやや強い 粘性なし
- 9 10YR4/4 褐色土 ローム粒(1～5mm)、ロームブロック(5～10mm)多く含む しまり弱い 粘性なし
- 10 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒(1～5mm)、ロームブロック(5～10mm)少量含む しまりやや強い 粘性なし
- 11 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒(1～3mm)多く含む しまりやや強い 粘性なし
- 12 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック(5～10mm)多く含む しまりやや強い 粘性なし
- 13 10YR4/2 灰黄褐色土 ローム粒(1～5mm)、ロームブロック(5～10mm)多い、焼土粒少量含む しまり非常に強い 粘性なし 硬化面
- 14 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒(1～3mm)少量、焼土粒微量含む しまりやや強い 粘性あり
- 15 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒(1～3mm)、焼土粒、炭化物粒少量含む しまり強い 粘性なし  
13層の硬化面を掘削した後形成された硬化面か
- 15' 10YR4/3 暗褐色土 ローム粒(1～3mm)少量含む しまりやや強い 粘性なし
- 16 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒(1mm程度)少量含む しまり弱い 粘性あり
- 17 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒(1mm程度)、炭化物少量含む しまり弱い 粘性なし
- 18 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒(1mm以下)含む しまりやや強い 粘性あり
- 19 10YR4/1 褐色土 ロームブロック(10～20mm)多い、炭化物粒微量含む しまりやや強い 粘性なし
- 20 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒(1～3mm)含む しまりやや強い 粘性あり
- 21 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒(1～3mm)多い、焼土粒微量含む しまりやや強い 粘性なし
- 22 7.5YR3/1 黒褐色土 ローム粒(1～3mm)少量含む しまりやや強い 粘性あり
- 22' 7.5YR4/1 褐色土 ローム粒(1～3mm)少量含む しまりやや強い 粘性あり
- 23 10YR4/1 褐色土 ローム粒(1～5mm)少量含む しまりやや強い 粘性あり
- 24 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒(1mm以下)微量含む しまりやや強い 粘性あり
- 25 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒(1mm程度)多く含む しまりやや強い 粘性あり
- 26 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒(1mm以下)、ロームブロック(5～10mm)少量含む しまり非常に強い 粘性なし 硬化面(第IV期)
- 27 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒(1mm程度)少量含む しまりやや強い 粘性あり
- 28 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒(1mm以下)微量含む しまりやや強い 粘性あり
- 29 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(3mm程度)多く含む しまり強い 粘性なし
- 30 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒(1mm以下)多い、炭化物粒少量含む しまりやや強い 粘性あり
- 31 10YR4/4 褐色土 ロームブロック(10～20mm)少量含む しまりやや強い 粘性あり
- 32 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒(1～3mm)少量含む しまりやや強い 粘性あり
- 33 10YR4/4 褐色土 ロームブロック(10～20mm)少量含む しまりやや強い 粘性あり
- 34 7.5YR3/3 暗褐色土 ローム粒(1mm程度)、焼土粒、炭化物粒多く含む しまり強い 粘性あり 硬化面(第III期)
- 35 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒(1mm以下)少量含む しまり非常に強い 粘性なし 硬化面(第III期)
- 36 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒(1mm以下)微量含む しまり非常に強い 粘性なし 硬化面(第III期)
- 37 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒(1mm以下)、炭化物粒微量含む しまり非常に強い 粘性あり 硬化面(第III期)
- 38 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒(1mm程度)微量含む しまりやや強い 粘性あり 硬化面(第III期)
- 39 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒(1mm以下)多く含む しまり非常に強い 粘性なし 硬化面(第III期)
- 40 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒(1mm以下)、炭化物粒多く含む しまり非常に強い 粘性なし 硬化面(第II期)(下面是硬化面(第I期))
- 41 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒(1mm以下)多く含む しまり強い 粘性あり 硬化面(第II期)(下面是硬化面(第I期))
- 42 10YR4/6 褐色土 ローム粒(1mm以下)多く含む しまりやや強い 粘性あり 硬化面(第II期)(下面是硬化面(第I期))
- 43 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒(1mm以下)多く含む しまりやや強い 粘性あり 硬化面(第II期)(下面是硬化面(第I期))
- 44 10YR3/4 褐色土 ローム粒(1mm以下)多い、炭化物粒少量含む しまり非常に強い 粘性なし 硬化面(第II期)(下面是硬化面(第I期))
- 45 10YR4/2 灰黄褐色土 ローム粒(5mm程度)多く含む しまり強い 粘性なし
- 46 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒(1mm以下)、炭化物粒多い、焼土粒少量含む しまりやや強い 粘性あり
- 47 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒(1～5mm)、ロームブロック(5～20mm)多く含む しまり弱い 粘性なし
- 48 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒(1～3mm)多い、炭化物粒少量含む しまりやや強い 粘性あり
- 49 10YR5/6 黄褐色土 ロームブロック(20mm程度)多く含む しまりやや強い 粘性なし ソフトローム
- 50 火山灰層 宝永火山灰層
- a 10YR4/4 褐色土 ロームブロック(10～20mm)少量含む しまりやや強い 粘性あり
- b 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒(1mm以下)微量含む しまりやや強い 粘性あり 硬化面(第III期)

Pit02



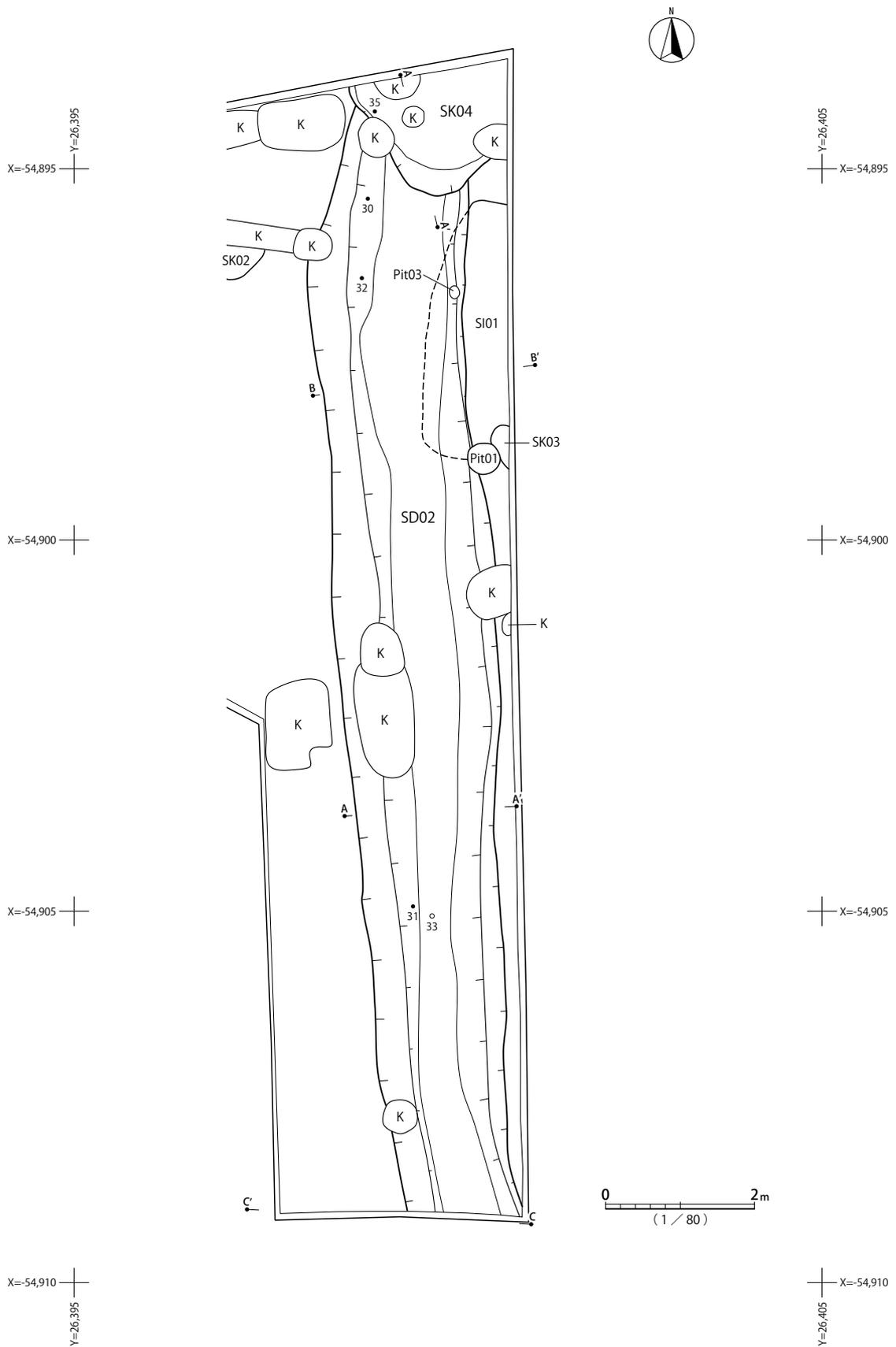
1 10YR4/4 褐色土 ローム粒(1mm程度)微量に含む しまりやや強い 粘性あり

第8図 SD01土層説明、Pit02土層断面図

1.1mを計る。この時期に属すると思われるその他の遺構は確認されていない。

出土遺物は土師器足高台杯14、外面を施釉された中世常滑壺15、置きカマド16、鉄鏝17・18が出土している。

SD02, SK04

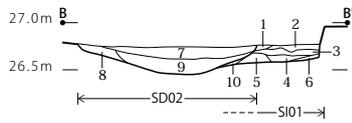


第9図 SD02,SK04 遺構図

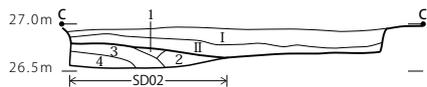
## SD02



- |   |         |      |                   |         |      |
|---|---------|------|-------------------|---------|------|
| 1 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | ローム粒(1mm程度)少量含む   | しまりやや強い | 粘性あり |
| 2 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | ロームブロック(5~10mm)含む | しまりやや強い | 粘性あり |
| 3 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | ローム粒(1~5mm程度)多く含む | しまり弱い   | 粘性なし |

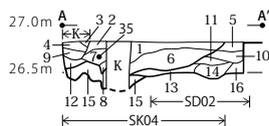


- |    |         |      |                     |          |               |
|----|---------|------|---------------------|----------|---------------|
| 1  | 10YR2/3 | 黒褐色土 | ローム粒(1mm以下)微量含む     | しまりやや強い  | 粘性あり          |
| 2  | 10YR2/3 | 黒褐色土 | ローム粒(1mm以下)微量含む     | しまり弱い    | 粘性あり          |
| 3  | 10YR3/3 | 暗褐色土 | ローム粒・焼土粒(1mm以下)少量含む | しまり非常に強い | 粘性なし SiO1 硬化面 |
| 4  | 10YR3/2 | 黒褐色土 | ローム粒(1~5mm)少量含む     | しまりやや強い  | 粘性なし          |
| 5  | 10YR3/3 | 暗褐色土 | ローム粒(1~5mm)少量含む     | しまり強い    | 粘性あり          |
| 6  | 10YR2/3 | 黒褐色土 | ローム粒(1~5mm)含む       | しまりやや強い  | 粘性なし          |
| 7  | 10YR3/4 | 暗褐色土 | ローム粒(1~5mm)多く含む     | しまり弱い    | 粘性なし          |
| 8  | 10YR3/4 | 暗褐色土 | ローム粒(1~5mm)多く含む     | しまりやや強い  | 粘性あり          |
| 9  | 10YR3/4 | 暗褐色土 | ローム粒(1~5mm)少量含む     | しまりやや強い  | 粘性あり          |
| 10 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | ローム粒・焼土粒(1mm程度)少量含む | しまりやや強い  | 粘性あり          |

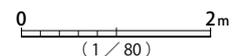


- |    |         |       |  |         |      |
|----|---------|-------|--|---------|------|
| I  | 10YR4/2 | 灰黄褐色土 | ローム粒(1~5mm)、炭化物粒多く含む                     | しまり強い   | 粘性なし |
| II | 10YR3/2 | 黒褐色土  | ローム粒(1~5mm)、焼土粒、炭化物粒多く含む                 | しまりやや強い | 粘性なし |
| 1  | 10YR3/3 | 暗褐色土  | ローム粒(1~3mm)多い、炭化物粒微量に含む                  | しまりやや強い | 粘性あり |
| 2  | 10YR3/3 | 暗褐色土  | ローム粒(1~5mm)、ロームブロック(5~10mm)多く含む          | しまりやや強い | 粘性なし |
| 3  | 10YR3/3 | 暗褐色土  | ローム粒(1mm以下)多い、焼土粒・炭化物粒微量に含む              | しまりやや強い | 粘性あり |
| 4  | 10YR3/4 | 暗褐色土  | ローム粒(1mm程度)、ロームブロック(10mm程度)多く含む、焼土粒微量に含む | しまりやや強い | 粘性あり |

## SK04



- |    |         |         |                            |         |      |
|----|---------|---------|----------------------------|---------|------|
| 1  | 10YR3/2 | 黒褐色土    | ローム粒(1mm程度)少量含む            | しまりやや強い | 粘性あり |
| 2  | 10YR3/3 | 暗褐色土    | ローム粒(1mm程度)少量含む            | しまりやや強い | 粘性なし |
| 3  | 10YR3/2 | 黒褐色土    | ローム粒(1mm程度)含む              | しまり弱い   | 粘性なし |
| 4  | 10YR3/3 | 暗褐色土    | ローム粒(5mm程度)多く含む            | しまり強い   | 粘性なし |
| 5  | 10YR3/3 | 暗褐色土    | ローム粒(1mm以下)微量含む            | しまり弱い   | 粘性あり |
| 6  | 10YR3/2 | 黒褐色土    | ローム粒(1~5mm程度)、焼土粒(1mm以下)含む | しまりやや強い | 粘性あり |
| 7  | 10YR3/3 | 暗褐色土    | ローム粒(1~3mm程度)含む            | しまりやや強い | 粘性あり |
| 8  | 10YR3/4 | 暗褐色土    | ローム粒(1mm以下)多く含む            | しまり弱い   | 粘性あり |
| 9  | 10YR3/3 | 暗褐色土    | ローム粒(1mm程度)含む              | しまり強い   | 粘性なし |
| 10 | 10YR3/3 | 暗褐色土    | ローム粒(1mm以下)微量含む            | しまり弱い   | 粘性なし |
| 11 | 10YR3/3 | 暗褐色土    | ローム粒(1~5mm)含む              | しまり弱い   | 粘性あり |
| 12 | 10YR3/4 | 暗褐色土    | ロームブロック(5~10mm)多く含む        | しまり強い   | 粘性なし |
| 13 | 10YR3/3 | 暗褐色土    | ローム粒(1mm程度)少し含む            | しまりやや強い | 粘性あり |
| 14 | 10YR3/3 | 暗褐色土    | ロームブロック(5mm程度)含む           | しまりやや強い | 粘性あり |
| 15 | 10YR3/4 | 暗褐色土    | ロームブロック(5~10mm)少し含む        | しまりやや強い | 粘性あり |
| 16 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色土 | ロームブロック(5~10mm)多く含む        | しまりやや強い | 粘性なし |



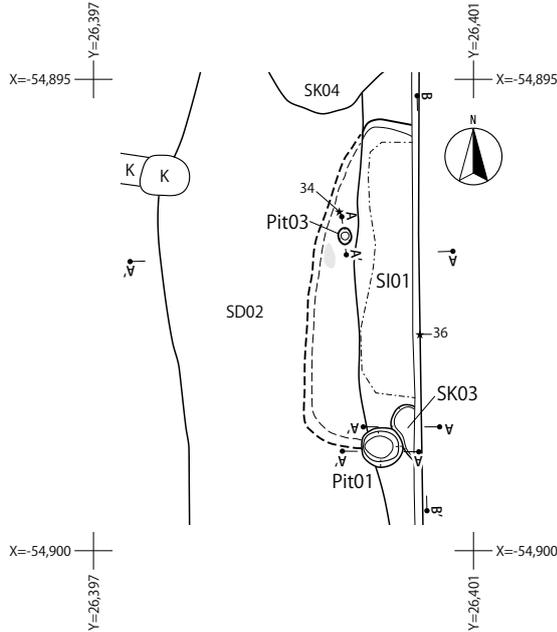
第10図 SD02、SK04 土層断面図

### ●第V期(第6図、第13図1~13、図版7・8)

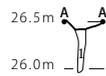
底面付近で確認された硬化面より上層部を第V期とした。遺物は主に4層付近から下層の部分で検出されている。また底面付近の硬化面より上層にも関わらず、比較的硬質な層(13層)が確認されており、14層によって削平されている。加えて14層の下位に位置する15層も比較的硬質であることから、第IV期路面埋没後も後世に道路として使用されていた可能性が示唆される。さらに、東西約10.5mの幅で浅く緩傾斜の掘り込みが確認できることから、この掘り込みもこの時期に関係するものである可能性がある。正確な年代の特定は困難であるが、14層より上層である50層から宝永4年(1707)に噴火した富士山の火山灰が確認されていることから少なくとも18世紀初頭以前に属するものであろう。

出土遺物は4層から口縁部下位に波状紋を残す須恵器甕1・2、叩き痕を残す須恵器甕3、須恵器瓶壺類4が出土している。また14層から外面と底部全体に赤色顔料が付着した須恵器碗5、一部を砥石に転用した平瓦6、碗型滓7、12層から灰釉陶器壺8、一部を砥石に転用した平瓦9が出土している。

SI01、SK03、Pit01・Pit03

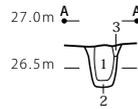


Pit03



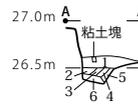
- 1 7.5YR4/4 褐色土 ローム粒(1mm程度)少量含む  
しまり弱い 粘性なし

Pit01



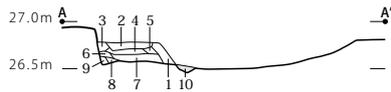
- 1 10YR2/3 黒褐色土 ロームブロック(5mm程度)少量含む  
しまりやや強い 粘性あり
- 2 10YR4/4 褐色土 ローム粒(1~3mm程度)含む  
しまり弱い 粘性あり
- 3 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒(1mm程度)少量含む  
しまり弱い 粘性あり

SK03

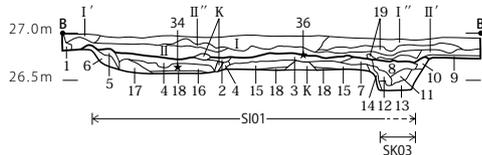


- 1 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒(1mm以下)微量含む  
しまりやや強い 粘性あり SI01SPA-SPA'14層
- 2 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒(1mm以下)微量含む  
しまり弱い 粘性あり SI01SPA-SPA'17層
- 3 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒(1~5mm)含む  
しまり弱い 粘性あり
- 4 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(1mm以下)微量含む  
しまり弱い 粘性あり
- 5 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒(1mm程度)含む  
しまり弱い 粘性あり
- 6 10YR3/4 暗褐色土 ロームブロック(5~10mm)多く含む  
しまりやや強い 粘性あり SI01SPA-SPA'19層

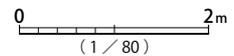
SI01



- 1 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒(1mm以下)少量含む しまりやや強い 粘性あり
- 2 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒(1mm以下)含む しまりやや強い 粘性なし
- 3 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(1~3mm)含む しまり弱い 粘性あり
- 4 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒(1mm以下)少量含む しまりやや強い 粘性あり
- 5 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒なし しまりやや強い 粘性あり
- 6 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒(5mm程度)含む しまり弱い 粘性なし
- 7 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒(1~5mm)含む しまり強い 粘性あり
- 8 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒(1mm以下)少量含む しまり強い 粘性あり
- 9 10YR4/4 褐色土 ローム粒(5mm程度)多く含む しまり弱い 粘性なし
- 10 5YR3/4 暗赤褐色土 しまり強い 粘性なし 焼土層

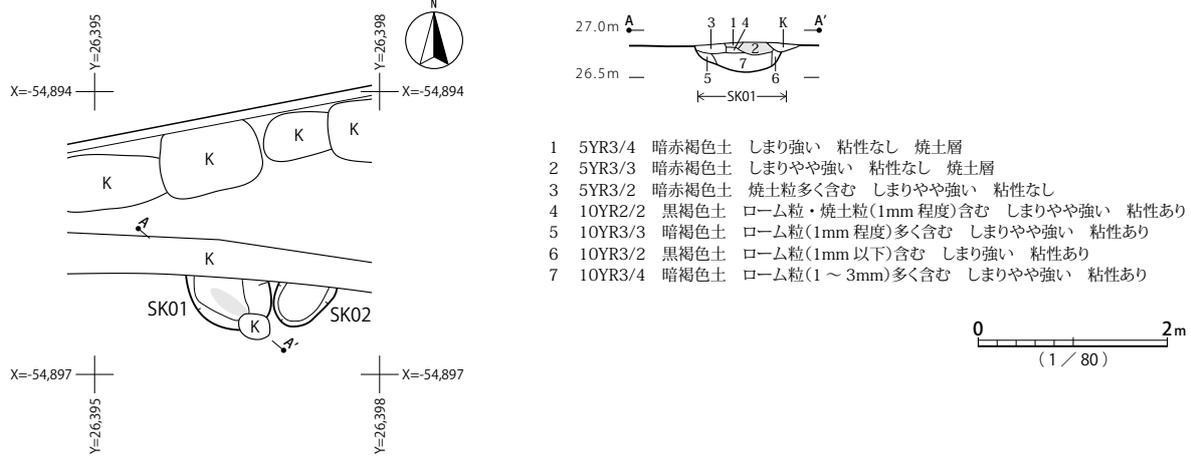


- I 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒(1~5mm)、ロームブロック(5~10mm)、炭化物粒多く含む しまりやや強い 粘性なし
- I' 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒(1~5mm)多く含む しまりやや強い 粘性なし
- I'' 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒(1~3mm)炭化物粒多く含む しまりやや強い 粘性なし
- II 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒(1~5mm)多い、焼土粒少量含む しまりやや強い 粘性あり
- II' 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒(1~5mm)、ロームブロック(5~20mm)多く含む しまりやや強い 粘性あり
- II'' 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒(1~3mm)、炭化物粒多く含む しまりやや強い 粘性なし
- 1 10YR3/3 暗褐色土 ロームブロック(5~10mm)多く含む しまりやや強い 粘性なし
- 2 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒(1~3mm)多く含む しまりやや強い 粘性あり
- 3 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒(1~5mm)、ロームブロック(5~10mm)多く含む しまりやや強い 粘性あり
- 4 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(1~5mm)、ロームブロック(10mm程度)少量含む しまりやや強い 粘性あり
- 5 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒(1~5mm)少量含む しまりやや強い 粘性なし
- 6 10YR4/4 褐色土 ローム粒(1~5mm)多く含む しまりやや強い 粘性なし
- 7 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒(1~3mm)多い、炭化物粒微量含む しまりやや強い 粘性あり
- 8 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(1~3mm)、ロームブロック(5~10mm程度)少量含む しまりやや強い 粘性なし
- 9 10YR4/4 褐色土 ローム粒(1~5mm)、ロームブロック(5~20mm程度)多く含む しまりやや強い 粘性なし
- 10 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒(1~3mm)少量含む しまりやや強い 粘性なし
- 11 10YR3/4 暗褐色土 ロームブロック(5~20mm程度)多く含む しまりやや強い 粘性なし
- 12 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒(1~3mm)少量含む しまりやや強い 粘性なし
- 13 10YR3/4 暗褐色土 ロームブロック(5~20mm程度)多く含む しまり弱い 粘性なし
- 14 10YR3/3 暗褐色土 ロームブロック(5~20mm程度)多く含む しまり弱い 粘性なし
- 15 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒(1~5mm)少量含む しまりやや強い 粘性あり
- 16 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒(1~5mm)、ロームブロック(5mm程度)少量含む しまりやや強い 粘性あり
- 17 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒(1~3mm)多く含む しまりやや強い 粘性なし
- 18 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒(1mm以下)微量含む しまり非常に強い 粘性なし 貼床面
- 19 火山灰層 宝永火山灰層



第11図 SI01、SK03、Pit01・Pit03 遺構図・土層断面図

## SK01・SK02



第12図 SK01・SK02 遺構図・土層断面図

15層からは内面を黒色処理した土師器碗10、足高高台杯11、灰釉陶器碗・皿類12が出土している。21層からは渥美産陶器甕13が出土している。

## 溝状遺構

SD02(第9・10図、第14図30～33・36、図版4・6～8)

調査区の東端に位置しており、前述のSD01と同様に走行は南北方向である。東西幅は南側で確認でき、幅約2mを計る。掘り込み上面からの深さは約0.4mであり、表土上面から確認面までの深さも約0.6mと浅い。東壁側の上面付近から寛永通宝36が出土しており、加えて確認面より上層に宝永富士火山灰が確認できることから、この溝状遺構の形成時期は17世紀中期～後期と考えられる。溝底面からは硬化面は検出されておらず、道路として使用されたとは考え難い。また、この遺構は後世に何度か攪乱を受けており、北側はSK04によって大きく削平されている。

出土遺物は内面黒色処理された土師器碗30、古墳時代高杯31、近世陶器32、丸瓦33が出土している。

## 竪穴建物跡

SI01・Pit03(第11図、第14図34、図版4・6～8)

調査区東端に位置しており、検出されたのは竪穴建物跡の西側の一部であり、その他の東側は調査区外に位置している。規模は南北方向に約3.5m、確認面からの深さは約0.2mであり、貼床が施されていたと考えられる。また遺構西側は近世溝状遺構(SD02)によって削平されており、その削平部分から焼土と柱穴と思われるピット(Pit03)が確認されている。これらの遺構の位置はSD02の範囲内であるが、SD02の下端付近であり、またSI01の床レベルより少し低い程度である。これらのことから、焼土とPit03は元来、SI01に属する遺構であり上面部分がSD02によって削平されたと推測される。さらに、SI01の南側の掘り込み面はSK03・Pit01によって改変されている。

出土遺物は竪穴覆土中から延喜通宝34が出土している。その他には弥生～古代の土器類の破片が出土している。

## 土坑・ピット

### SK01・SK02(第12図、図版7)

SD02の西側に並列して位置しており、楕円形を呈する。SK01の短径と深さはそれぞれ約0.8m、約0.4mである。北側は攪乱を受けている。SK01の埋土上部には焼土が椀状に2ヶ所堆積していたが、層序を確認した結果、これら焼土は比較的新しい時期の堆積物であると考えられる。SK02の短径は約0.4mであり、深さ約0.1mであった。

SK01・SK02からは土器の破片が数点検出されたが、時期を推定できるものはなかった。

### SK03(第11図、図版6)

SI01の南端に位置しておりSI01の南側の掘り込み面を削平している。規模は南北方向約0.6m、深さ約0.3mである。この遺構の東側は調査区外に位置しており、またSD02を掘り込んで形成されている。さらに西側の一部は後世にPit01によって削平されている。

出土遺物は確認できず、時期を特定できるものは確認できなかったが、覆土の上位に宝永富士火山灰層(1707年)が位置していることから17世紀中期～後期のSD02形成後と考えられる。

### SK04(第9・10図、第14図35、図版7)

SD02の北側に位置しており、この遺構の北から東側は調査区外にある。規模・用途は不明であるが、土層断面図を観察すると椀形状に掘り込むようにSD02の北側を削平している。

出土遺物は土器片とカワラケ杯35が確認されている。35の底部付近の表面には砥石転用の痕跡が確認できる。上総国分僧寺XIII期併行期(13世紀後半)の遺物だと考えられるが、ロームブロック主体の埋土から検出されたことからSK04形成時の混ざり込みと考えられる。

### Pit01(第11図、図版7)

SI01の南端に位置しておりSK03の西側の一部を削平している。規模は径約0.4m、深さ0.5mで円形を呈する。またこの遺構はSD02の確認面を掘り込んで構築されており、加えて埋土から宝永富士火山灰は確認されていないことから18世紀初頭以降に属する遺構であると考えられる。

出土遺物は古墳時代土師器の破片が確認されており、混ざり込みと考えられる。

## 4 まとめ

調査の結果、道路跡1条、竪穴建物跡1棟、溝状遺構1条、ピット2基、土坑4基が検出された。平安時代の遺構はSI01が該当し、年代的に隣接する稻荷台遺跡E地区との関連性が考えられる。また中世遺構にはSD01が該当し、内陸部から海岸部へ向かう重要な道路として使用されたと推測される。近世遺構では宝永富士火山灰層を乗せるSD02が該当するが、性格は不明確である。

特に調査を通じて道路跡(SD01)は5段階の時期に分かれることが確認された。他方で今回の調査区の北方に位置するJ地点から検出された道路跡はSD01と接続すると考えられ、かつ最下層には奈良～平安期のものと思われる硬化面が確認されている(牧野2003)。今回のR地点では中世以前の層は確認できなかったが、官衙関連遺跡と推測されるE地区に近接していることから、SD01も当

初は奈良～平安期に造られ中世において改変された可能性がある。またSD01の各時期の年代を推定すると、第Ⅲ期の硬化面層から渥美産陶器24が出土していることから、第Ⅲ期は少なくとも12世紀以降に属すると考えられる。また第Ⅳ層から出土した鉄鍬17は刃部が鑿状を呈し、篋被から刃部にかけて約3cmと短いこと、さらに鍬身縦断面形が三角形となっていることから14～15世紀の遺物と考えられる(津野1990)。第Ⅰ期の層からも中世陶器28が出土していることを考慮するとSD01は中世段階において、主に12～15世紀にわたって使用されたと思われる。加えて、第Ⅴ期段階の上層から宝永富士火山灰が検出されていることから、SD01は15世紀以降、一度廃絶された後、18世紀初頭以前に再度使用されたと推測される。

また第Ⅰ期及び第Ⅱ期段階で検出された波板状凹凸面について、凹部充填土の硬化度や色調が同時期の硬化面層の硬化度、色調と類似していること、形状が不均一であることから人為的な構築物ではなく自然発生的なものであると思われる。由来は不透明ではあるが、今回の出土状況を鑑みると東氏が提唱する牛馬歩行痕跡の可能性が高いと考えられる(東2003)。

さらに特筆事項としてSI01の覆土から延喜通宝34(初鑄年907年)が発見された。2004年(平成16年)刊行の千葉県史皇朝十二銭集成(財団法人千葉県史料研究財団2004)を参照すると、当年以前の段階ではこの種の古銭の発見例は確認されておらず、県内初の事例と考えられる。

今回の調査により稲荷台遺跡・市原古道遺跡の新たな資料を加えることができ、数度にわたる道路使用の様相が明らかとなった。また、竪穴建物跡から皇朝十二銭の一つである延喜通宝が出土したことを踏まえると、隣接する官衙関連遺跡との関係性も検討する必要があるだろう。

#### 引用参考文献

浅利幸一ほか2003『市原市稲荷台遺跡』市原市教育委員会

財団法人千葉県史料研究財団2004『千葉県の歴史 資料編 考古4(遺跡・遺構・遺物)』千葉県

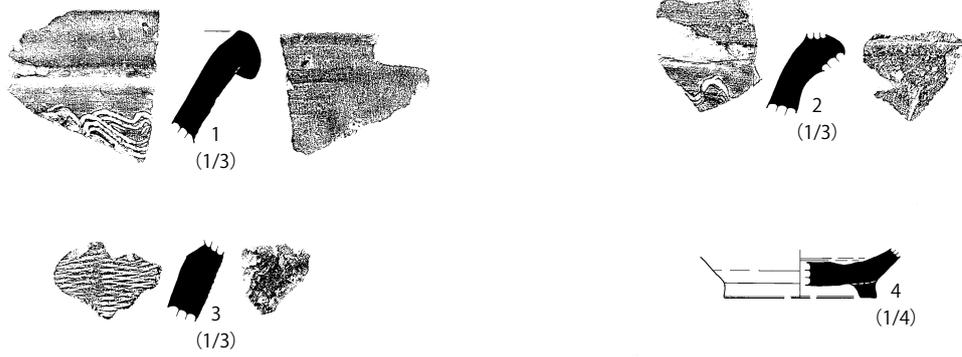
田所真1996「山田橋玄の海道遺跡」『市原市文化財センター年報(平成8年度)』財団法人市原市文化財センター

津野仁1990「古代・中世の鉄鍬—東国の出土品を中心に—」『物質文化』54 P.59～75

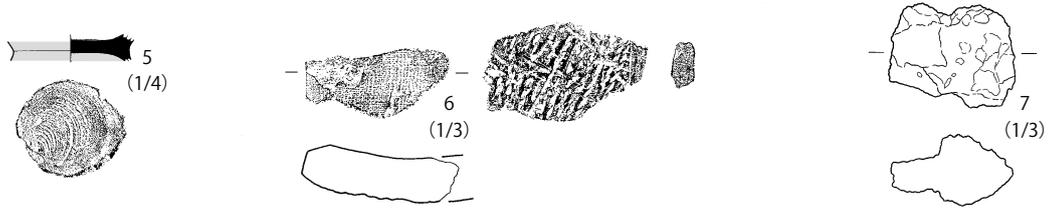
東和幸2003「波板状凹凸面牛馬歩行痕跡再論」『縄文の森から』創刊号 鹿児島県立埋蔵文化財センター研究紀要 P.81～88

牧野光隆2003「稲荷台遺跡」『平成14年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会

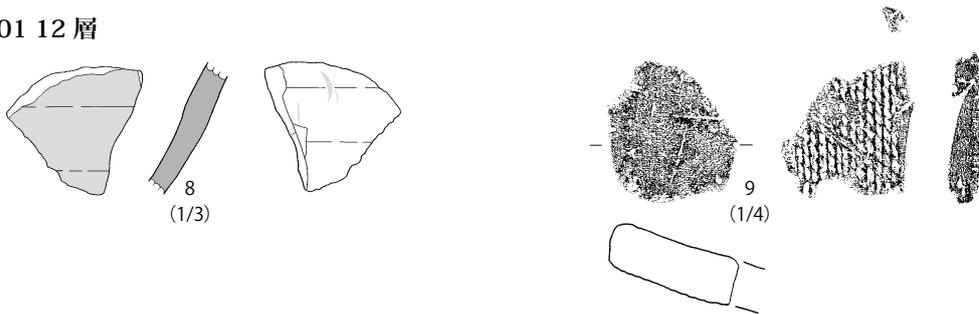
SD01 4層



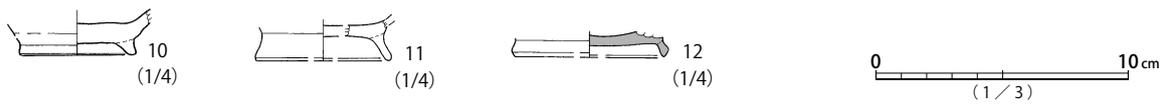
SD01 14層



SD01 12層



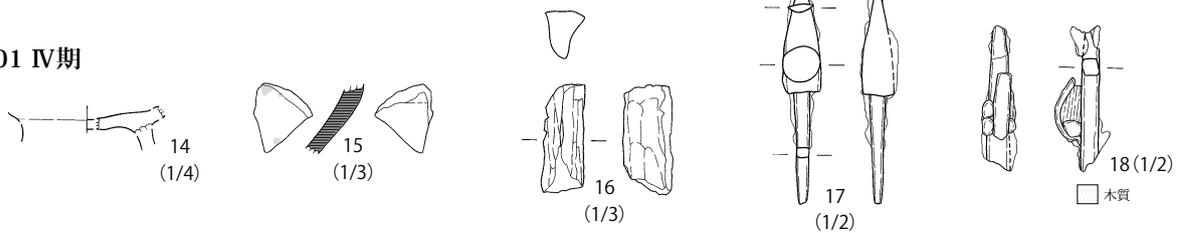
SD01 15層



SD01 21層

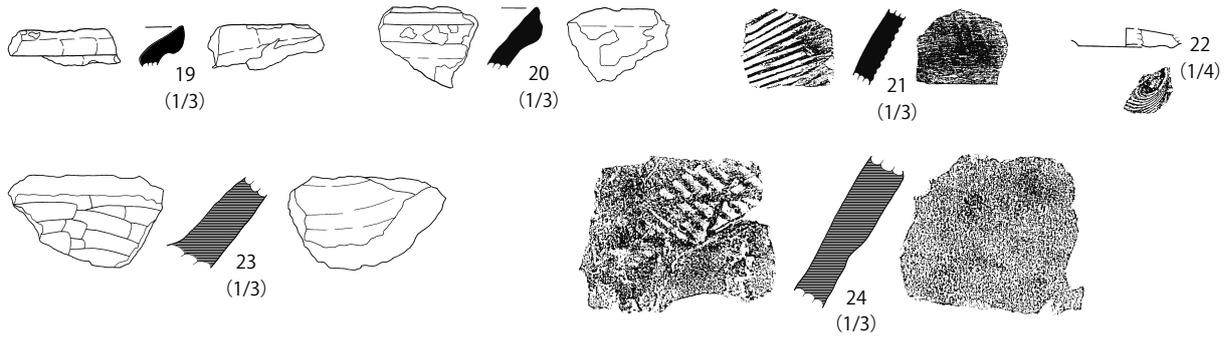


SD01 IV期

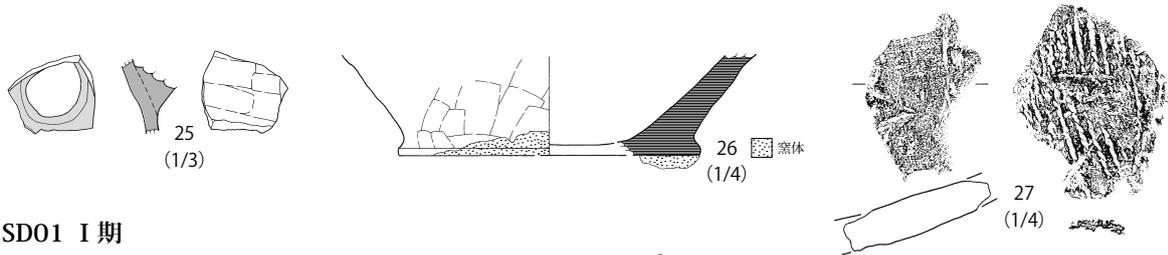


第13図 SD01(1) 遺物実測図

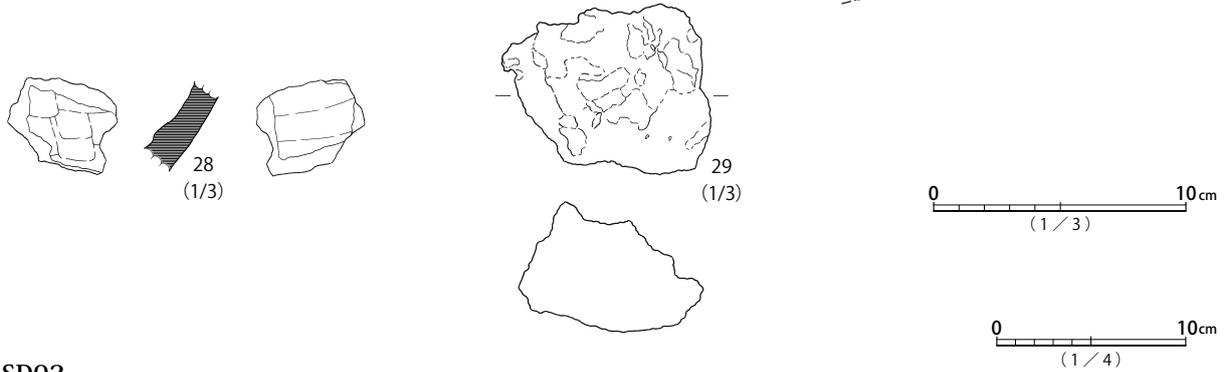
SD01 Ⅲ期



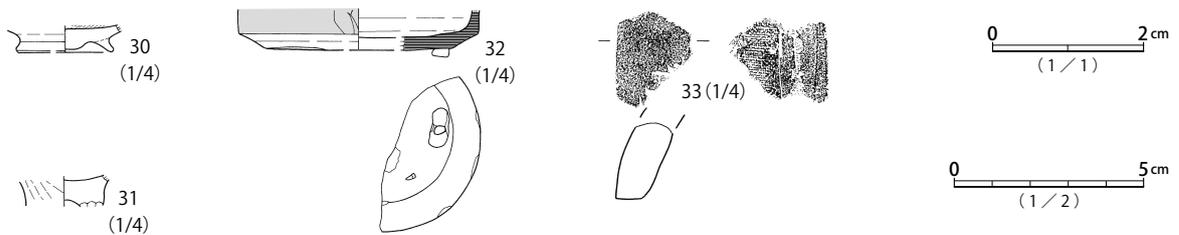
SD01 Ⅱ期



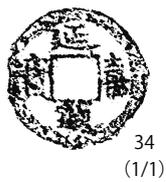
SD01 Ⅰ期



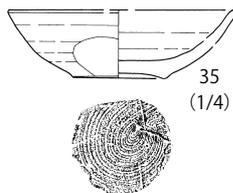
SD02



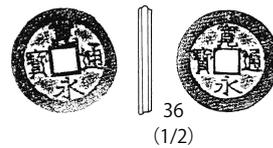
SI01



SK04



調査区出土(SD02 直上)



第14図 SD01(2)・SD02・SI01・SK04・調査区出土 遺物実測図

第1表 出土土器・土製品概観表

凡例：寸法の( )は既存幅、?は推定復元値を示す。

遺構番号	遺物番号	挿図番号	挿図番号	図版番号	注記	種別	器種	部位	周遊存	寸法			重量g	焼成	胎土	色調		特徴		備考
										口径	器高	底径				最大幅	外面	内面	外面	
SD01	1	13	8	7	セ601SD00111層12	須恵器	甕	口縁部の一部	小片	-	(4.5)	-	48.2	良好	白色細粒を微量含む	5Y5/2灰オリーブ	5Y5/1灰	波状紋、ロクロ調整	ロクロ調整	東海系、ロクロ整形
SD01	2	13	8	7	セ601SD00111層14	須恵器	甕	口縁部の一部	小片	-	(3.1)	-	25.4	良好	雲母細粒を少量含む	5Y6/3オリーブ黄	5Y6/4オリーブ黄	波状紋、ロクロ調整	ロクロ調整	新治産
SD01	3	13	8	7	SD014層3一括	須恵器	甕	胴部の一部	小片	-	(3.2)	-	18.9	良好	雲母細粒を多量含む	2.5Y5/2暗灰黄	2.5Y5/2暗灰黄	叩き痕あり	ロクロ調整	新治産
SD01	4	13	7	7	セ601SD00111層7	須恵器	瓶壺類	胴部・胴部の一部	1/5残	-	(2.6)	8.0?	65.1	良好	白色細粒を微量含む	5Y5/1灰	5Y5/1灰	脚部付近をへラケズリ	ロクロ調整	脚部貼り付け
SD01	5	13	8	8	セ601SD00132層11	須恵器	椀	底部と胴部の一部	ほぼ完存	-	(1.5)	6.0?	42.0	普通	白色細粒を少量含む	2.5YR6/6橙	10YR7/1灰白	ロクロ調整	ロクロ調整	常陸産、赤色顔料ノベレット応用か
SD01	8	13	8	8	セ601SD00113・15層6	灰釉陶器	壺	胴部の一部	小片	-	(5.0)	-	28.6	良好	白色細粒を微量含む	5Y6/3オリーブ黄	5Y7/2灰白	ロクロ調整	ロクロ調整、僅かに施釉痕あり	内面黒色処理、脚部貼り付け
SD01	10	13	8	8	セ601SD00131層11	土師器	椀	底部と胴部の一部	ほぼ完存	-	(2.4)	6.1	54.7	普通	黒雲母を少量、黒色細粒を多量含む	5YR6/8橙	5YR3/1黒褐	ロクロ調整	ロクロ調整	
SD01	11	13	8	8	セ601SD00131層14一括	土師器	足高台杯	胴部の一部	1/8残	-	(2.1)	7.0?	8.9	普通	海面骨針を少量含む	5YR6/6橙	7.5YR6/6橙	ロクロ調整	ロクロ調整	
SD01	12	13	8	8	セ601SD00131層12	灰釉陶器	椀・皿類	胴部の一部	1/3残	-	(1.4)	8.0?	25.6	良好	黒色細粒を微量含む	2.5Y7/3浅黄	2.5Y8/3淡黄	ロクロ調整	ロクロ調整	脚部貼り付け
SD01	13	13	8	8	セ601SD00130層5	中世陶器	甕	胴部の一部	小片	-	(3.3)	-	34.4	良好	白色細粒を微量含む	2.5Y7/3浅黄	2.5Y6/2灰黄	叩き痕あり	ナデ調整	渥美産
SD01	14	13	8	8	セ601SD001コウカ120	土師器	足高台杯	底部の一部	1/6残	-	(1.5)	7.0?	17.2	普通	海面骨針を微量含む	10YR7/6明黄褐	10YR7/6明黄褐	ロクロ調整	ロクロ調整	
SD01	15	13	8	8	セ601SD001コウカ12一括	中世陶器	壺	胴部の一部	小片	-	(2.7)	-	5.8	良好	軽石を多量含む	10YR7/1灰白	10YR4/4褐	外面施釉、ロクロ調整	僅かに施釉痕あり	常滑産
SD01	16	13	8	8	セ601SD001コウカ11	土製品	置きカマド	底部の一部	小片	-	-	-	12.5	普通	海面骨針を含む	10YR5/4にぶい黄褐	10YR5/4にぶい黄褐	ナデ調整	ナデ調整	
SD01	19	14	8	8	セ601SD001コウカ223	須恵器	甕	口縁部の一部	小片	-	(1.5)	-	9.5	普通	白色細粒を多量含む	10YR4/2灰黄褐	10YR4/2灰黄褐	ナデ調整	ナデ調整	千葉産
SD01	20	14	8	8	セ601SD001コウカ222	須恵器	甕	口縁部の一部	小片	-	(1.9)	-	10.9	良好	赤色細粒(シャモット状)を少量含む	10YR5/2灰黄褐	10YR5/2灰黄褐	ロクロ調整	ロクロ調整	千葉産
SD01	21	14	8	8	セ601SD001コウカ28	須恵器	甕	胴部の一部	小片	-	(3.0)	-	16.7	良好	赤色細粒(シャモット状)を少量含む	5YR4/3にぶい赤褐	7.5YR4/2灰褐	叩き痕あり、鉄釉を施す	ナデ調整	猿投窯産、9世紀
SD01	22	14	8	8	セ601SD001コウカ22一括	カワラケ	小皿	底部の一部	1/6残	-	(1.0)	5.0?	7.1	普通	海面骨針を微量含む	7.5YR6/6橙	5YR6/2灰オリーブ	ロクロ調整	ロクロ調整	
SD01	23	14	8	8	セ601SD001コウカ211	中世陶器	片口鉢	胴部の一部	小片	-	(3.6)	-	45.6	良好	軽石を少量含む	10YR6/2灰黄褐	10YR5/4にぶい黄褐	ケズリ調整	ナデ調整	常滑産
SD01	24	14	8	8	セ601SD001コウカ213	中世陶器	甕	胴部の一部	小片	-	(6.0)	-	111.4	良好	雲母細粒を多量含む	7.5Y6/1灰	5Y6/4オリーブ黄	叩き痕あり	自然釉	渥美産
SD01	25	14	8	8	セ601SD001コウカ323	灰釉陶器	手付瓶	把手部の一部	小片	-	(2.7)	-	17.5	良好	黒色細粒を少量含む	7.5Y5/3灰オリーブ	2.5Y7/3浅黄	施釉	ナデ調整	
SD01	26	14	8	8	セ601SD001コウカ312	中世陶器	甕	底部・胴部の一部	1/5残	-	(5.3)	16.0?	230.9	良好	軽石、赤色細粒(シャモット状)を少量含む	10YR4/1褐灰	10C6/1緑灰	底部付近をナデ調整	全面的に自然釉	渥美産、底部付近に溶体が付着
SD01	28	14	8	8	セ601SD001コウカ45×1	中世陶器	甕	胴部の一部	小片	-	(3.2)	-	28.3	良好	白色細粒、赤色細粒を多量含む	7.5YR5/2灰褐	7.5YR5/2灰褐	ナデ調整	ナデ調整	常滑産
SD02	30	14	7	7	セ601SD0025×1	土師器	椀	胴部の一部	2/3残	-	(1.4)	5.0?	27.1	普通	海面骨針を少量含む	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR3/1黒褐	ロクロ調整	ミガキ調整	内面黒色処理
SD02	31	14	8	8	セ601SD00216×1	土師器	高杯	脚部括れ部	ほぼ完存	-	(1.6)	-	33.5	普通	海面骨針、赤色細粒(シャモット状)を少量含む	7.5YR6/8橙	7.5YR6/6橙	ナデ調整	ナデ調整	
SD02	32	14	7	7	セ601SD0028×1	近世陶器	香炉	底部・胴部の一部	1/3残	-	(2.5)	10.0?	56.9	良好	雲母細粒を少量含む	2.5Y8/2灰白	10YR6/4にぶい黄橙	ロクロ調整	ロクロ調整	底部取り付け脚部に指頭痕あり
SK04	35	14	7	7	セ601SK0052×5	カワラケ	杯	底部・胴部の一部	ほぼ完形	12.2?	3.6	5.2	102.8	普通	雲母細粒を多量含む	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	ロクロ調整	ロクロ調整	外面の一部を低石転用、灯明皿

第2表 出土瓦観察表

凡例：寸法の( )は現存値、?は推定値(元面を示す)。

遺構番号	遺物番号	種別	器種	寸法 cm			重量 g	胎土	色調	特徴				備考								
				全長	中央厚 ※側(側面部厚)	広・狭 端幅				凸面	凹面	糸	節		擦	経糸	緯糸	焼成	側・端面的特徴			
SD01	6	13	8	セ601SD00132層10	瓦	平瓦	(8.0)	(5.3)	2.5?	116.3	緻密。白色細粒を少量、赤色細粒を微量含む	7.5YR6/2灰褐	細叩き痕	布目痕	10	8	L	18	16	良好	凹凸側ケズリ	一部砥石に転用
SD01	9	13	8	セ601SD00113・15層3	瓦	平瓦	(8.75)	(7.15)	2.5?	176.1	緻密。白色細粒を少量、赤色細粒を少量含む	7.5YR7/6橙	細叩き痕	?	?	R	?	?	?	良好	凸面ケズリ	凹面一部を砥石転用により凹面布目は摩滅
SD01	27	14	8	セ601SD001コウカ310	瓦	平瓦	(10.8)	(8.7)	2.0?	164.2	赤色細粒(シャモット状)を少量含む	2.5Y5/3黄褐	細叩き痕	?	?	R	?	?	?	普通	破損により不明	凹面一部を砥石転用により凹面布目は摩滅
SD02	33	14	8	セ601SD00215×1	瓦	丸瓦	(5.5)	(4.2)	(2.05)	560	海面骨針、赤色細粒(シャモット状)を微量含む	2.5Y5/2暗灰黄	ナデ	布目痕	-	-	-	10	17	良好	凹面ケズリ、凹面からの分割後ケズリ	

第3表 出土鉄製品観察表

遺構番号	遺物番号	種別	注記	図版番号	挿図番号	寸法 cm			重量 g	備考
						長さ	幅	厚さ		
SD01	7	13	8	セ601SD00132層7	鉄滓	4.1	4.7	2.9	75.5	磁着あり。底面は緩いカーブを呈する。極型碎の一部か
SD01	17	13	8	セ601SD001コウカ112	鉄鏃	5.5	0.95	1.12	7.8	
SD01	18	13	8	セ601SD001コウカ118	鉄鏃	3.5	0.45	0.42	3.7	鉄片が付着しており、付着部には木質が見られる
SD01	29	14	8	セ601SD001コウカ47	極型碎	6.8	8.0	4.5	261.6	磁着あり

第4表 出土古銭観察表

遺構番号	遺物番号	種別	注記	図版番号	挿図番号	残存率	寸法 mm				重量 g	備考		
							外長	外幅	内長	内幅			厚さ	個体数
SD01	34	14	8	セ601SD0012	延喜通宝	100	18.26	17.46	15.3	14.56	1.58	1	1.7	
調査区	36	14	8	セ601イセキ一拵2	寛永通宝	100	27.5	27.2	20.88	21.3	3.46	3	14.5	3枚重ね(第5表参照)

第5表 調査区点上古銭(寛永通宝)個別寸法

	寸法 mm			重量 g	備考	
	外長	外幅	内幅			
	26.5	26.1	19.9	19.4	4.7	裏面に青海波紋あり
	27.0	27.0	20.9	20.6	4.6	裏面に青海波紋あり
	27.6	27.3	20.9	20.6	5.2	裏面に青海波紋あり

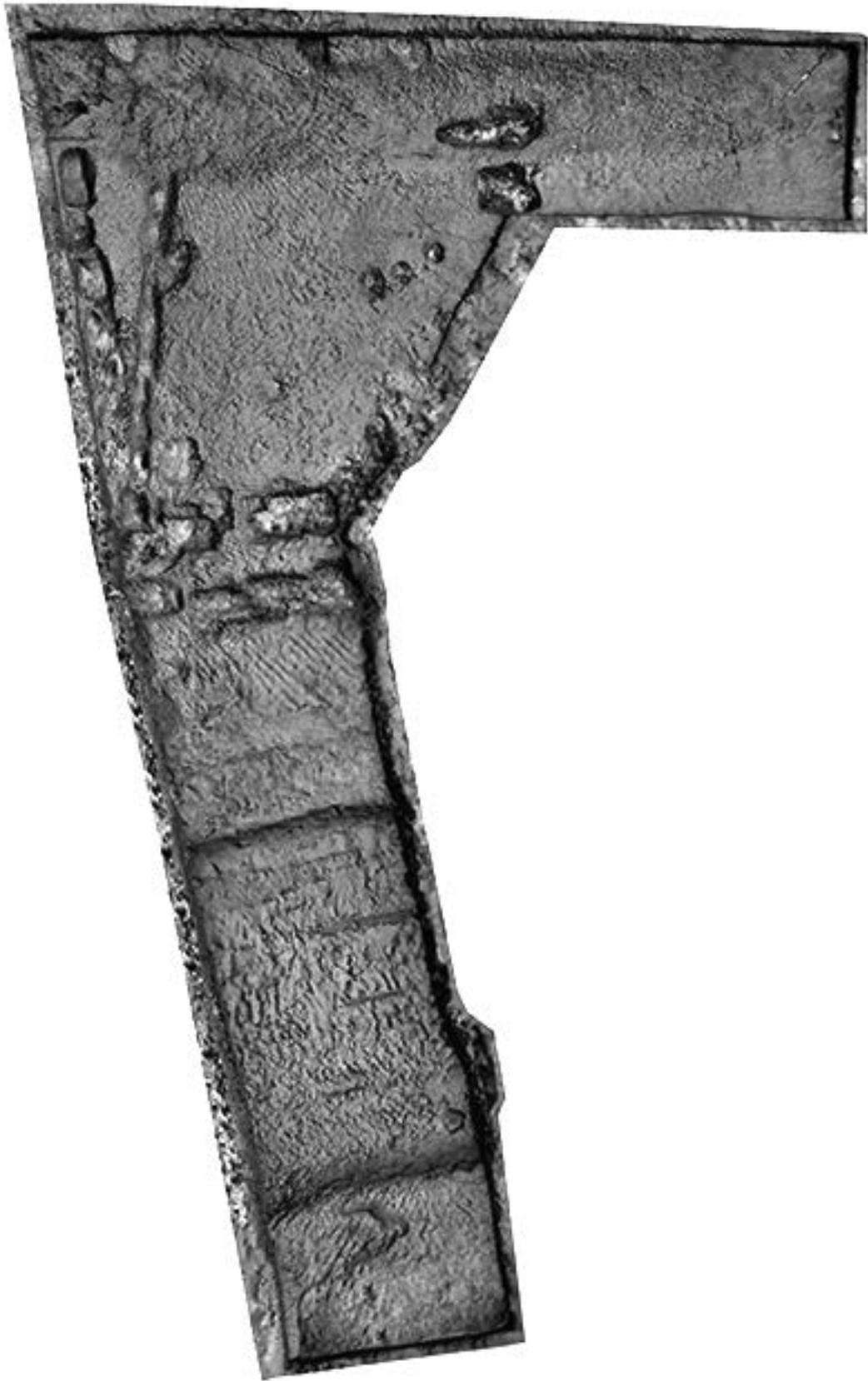
第6表 非掲載遺物一覧表

遺構番号	種別	器種	個数	重量(g)
SD01(第V期)	土師器	杯	108	429.9
SD01(第V期)	土師器	杯(内黒)	6	19.2
SD01(第V期)	土師器	甕	10	67.5
SD01(第V期)	カワラケ	小皿	2	8.3
SD01(第V期)	土師器	不明	36	58.8
SD01(第V期)	須恵器	杯	14	64.6
SD01(第V期)	須恵器	甕	17	338.4
SD01(第V期)	須恵器	壺	5	121.4
SD01(第V期)	瓦	平瓦	6	381.6
SD01(第V期)	瓦	丸瓦	3	138.1
SD01(第V期)	土製品	不明	18	32.4
SD01(第V期)	鉄	不明	2	50.7
SD01(第IV期)	弥生土器	壺	1	2.8
SD01(第IV期)	土師器	杯	17	47.5
SD01(第IV期)	土師器	椀	1	2.6
SD01(第IV期)	土師器	甕	6	40.1
SD01(第IV期)	土師器	不明	82	119.9
SD01(第IV期)	須恵器	杯	1	2.2
SD01(第IV期)	須恵器	甕	5	52.2
SD01(第IV期)	灰釉陶器	瓶壺類	2	9.0
SD01(第IV期)	瓦	平瓦	2	181.4
SD01(第III期)	土師器	杯	1	46.4
SD01(第III期)	土師器	甕	4	20.6
SD01(第III期)	土師器	不明	31	34.8
SD01(第III期)	須恵器	杯	2	3.0
SD01(第III期)	須恵器	甕	6	106.9
SD01(第III期)	瓦	平瓦	2	26.7
SD01(第III期)	瓦	丸瓦	1	35.0
SD01(第III期)	瓦	不明	4	32.3
SD01(第III期)	土製品	不明	1	10.2
SD01(第III期)	鉄	鉄塊	1	7.2
SD01(第II期)	土師器	杯	9	30.7
SD01(第II期)	土師器	甕	1	5.7
SD01(第II期)	土師器	不明	26	27.4
SD01(第II期)	カワラケ	小皿	1	6.7
SD01(第II期)	中世陶器	不明(常滑)	1	6.5
SD01(第II期)	須恵器	杯	2	2.2
SD01(第II期)	須恵器	甕	9	91.2
SD01(第II期)	須恵器	甕(千葉産)	4	23.2
SD01(第II期)	須恵器	瓶壺類	2	47.3
SD01(第II期)	灰釉陶器	不明	2	2.7
SD01(第II期)	瓦	平瓦	5	209.4
SD01(第II期)	瓦	不明	3	10.2
SD01(第II期)	鉄	鉄塊	3	45.6
SD01(第I期)	土師器	杯	1	3.7
SD01(第I期)	土師器	甕	4	22.9
SD01(第I期)	土師器	不明	11	14.1
SD01(第I期)	中世土器	不明	1	4.0
SD01(第I期)	カワラケ	小皿	1	5.3
SD01(第I期)	須恵器	杯	1	1.0
SD01(第I期)	須恵器	甕	3	86.8
SD01(第I期)	須恵器	壺	1	7.4
SD01(第I期)	須恵器	不明(千葉産)	1	2.8
SD01(第I期)	瓦	平瓦	4	286.2

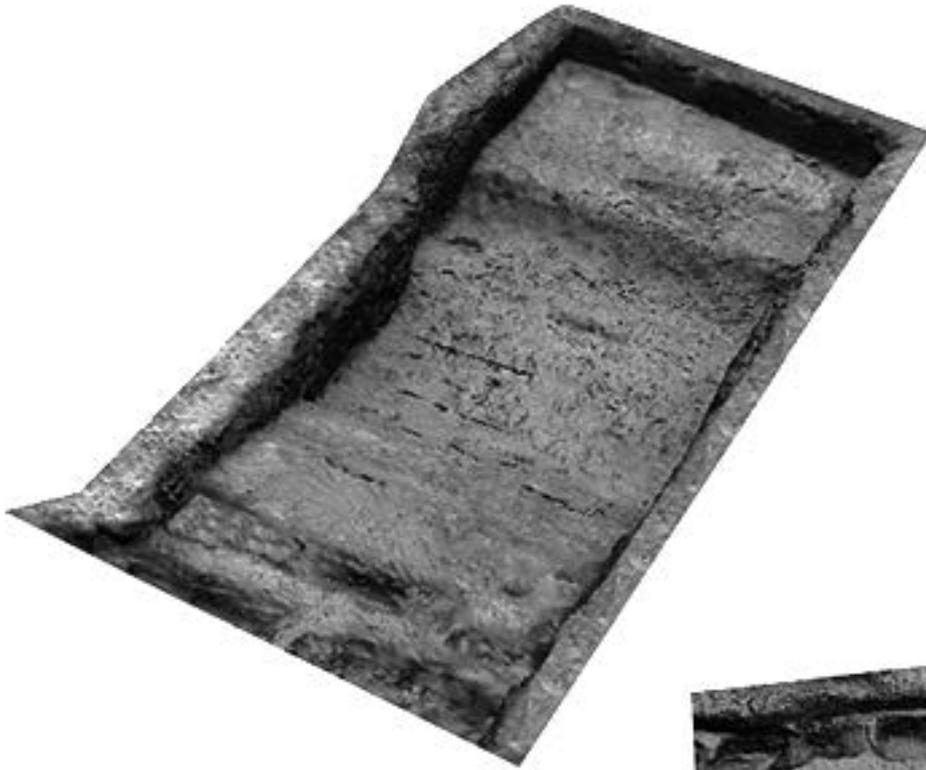
遺構番号	種別	器種	個数	重量(g)
SD02	土師器(草刈)	甕	4	30.3
SD02	土師器	椀皿杯類	22	84.4
SD02	土師器	甕	10	63.3
SD02	土師器	不明	17	48.9
SD02	須恵器	杯	6	13.6
SD02	須恵器	甕	6	93.4
SD02	須恵器	壺類	2	34.0
SD02	灰釉陶器	壺	5	20.6
SD02	鉄	不明	1	13.4
SI01	土師器(古墳)	甕	3	24.8
SI01	土師器(古墳)	杯	1	21.5
SI01	弥生土器	甕	1	16.2
SI01	弥生土器	壺	1	16.3
SI01	土師器	杯	8	24.6
SI01	土師器	椀	1	4.0
SI01	土師器	甕	1	12.8
SI01	土師器	不明	12	21.4
SI01	須恵器	甕	1	6.9
SK01	土師器	杯	1	5.2
SK04	弥生土器	鉢類	1	3.0
SK04	土師器	杯	10	30.0
SK04	土師器	杯(内黒)	1	2.9
SK04	土師器	椀(内黒)	2	9.8
SK04	土師器	甕	8	52.6
SK04	土師器	不明	4	6.9
SK04	須恵器	杯	2	9.7
調査区一括	縄文土器	深鉢	1	24.1
調査区一括	弥生土器	壺	1	5.2
調査区一括	土師器	杯	17	48.4
調査区一括	土師器	甕	11	76.8
調査区一括	土製品	不明	17	25.6
調査区一括	カワラケ	小皿	1	3.4
調査区一括	須恵器	杯	2	21.9
調査区一括	須恵器	甕(千葉産)	1	8.0
調査区一括	須恵器	甕	4	55.6
調査区一括	鉄	不明	1	1.2
遺構外	土師器	杯	4	18.7
遺構外	土師器	甕	2	26.2
遺構外	須恵器	甕	1	46.5
遺構外	土製品	不明	1	5.7
遺構外	鉄	ペイゴマ	1	32.6
遺構外	鉄	不明	2	21.3



# 写真図版



調査区全体 3次元データ



SD01 3次元データ



SD02 3次元データ



調査前状況 (南から)



SD02 検出状況 (南から)



SD02・SI01・SK04 検出状況 (西から)



SD01 検出状況 (東から)



発掘現場状況 (東から)



SD01 第I期硬化面検出状況 (北から)



SD01 完掘状況 (西から)



SD01 A-A' (南から)



Pit02 完掘状況 (北から)



SD02 B-B' (北から)



SD02 C-C'



SD02 完掘状況 (北から)



SI01 完掘状況 (西から)



SK03 半裁状況 (北から)



SI01 A-A'



SI01 B-B' (西から)



SK04 完掘状況



Pit01 半裁状況 (南から)



Pit01 完掘状況 (南から)



SK01 半裁状況 (南から)



4 (SD01)



32 (SD02)

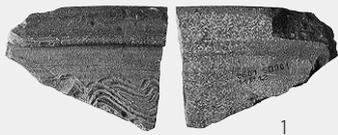


35 (SK04)



30 (SD02)

SD01



1



2



3



5



6



7



8



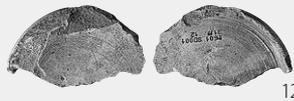
9



10



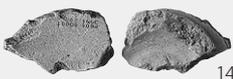
11



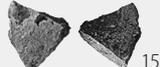
12



13



14



15



16



17



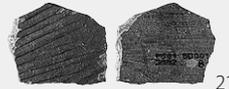
18



19



20



21



22



23



24



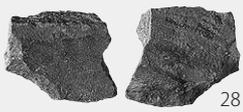
25



26



27



28



29

SD02



31



33

SI01



34

調査区出土



36

報告書抄録

ふりがな	いなりだいいせき(あーるちてん)・いちはらこどういせき							
書名	稲荷台遺跡(R地点)・市原古道遺跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名	市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書							
シリーズ番号	第59集							
編著者名	川上知哉							
編集機関	市原市教育委員会(市原市埋蔵文化財調査センター)							
所在地	〒290-0011 千葉県市原市能満1489 TEL 0436(41)9000							
発行年月日	2023年(令和5年)3月17日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		世界測地系		調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
いなりだいいせき(あーるちてん)・ 稲荷台遺跡(R地点)・ いちはらこどういせき 市原古道遺跡	ちばけんいちはらしふじい 千葉県市原市藤井一丁目 193番4	12219	396・792	35° 30' 0.6"	140° 07' 39"	20221003 ~ 20221028	180.99	駐車場造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
稲荷台遺跡(R地点)・ 市原古道遺跡	包蔵地	平安時代、 中世、 近世	平安時代竪穴建物跡1 棟、中世道路1条、中 世ピット1基、近世溝 1条、近世ピット1基、 性格不明土坑4基	古墳時代土師器、平安時代 土師器・須恵器・灰釉陶器・ 瓦(平瓦、丸瓦)・鉄器(鉄 滓)・銭貨(延喜通宝)、中世 陶器・鉄器(鉄鏝)、近世陶 器・銭貨(寛永通宝)		南北方向に延びる道路跡が検出され た。また皇朝十二銭の一つである延喜 通宝が発見された。		
要約	稲荷台遺跡(R地点)・市原古道遺跡は東京湾の旧海岸線から約3.5km内陸の標高約28mの台地上に所在する。調査の結果道路跡1条が検出され、合計5段階の時期に分かれて使用されていたと推定される。硬化面最下部から中世陶器の破片が出土したことから中世に使用されたと考えられる。また、平安時代竪穴建物跡が中世道路跡の東側から検出され、覆土から古銭(延喜通宝)が出土した。この種類の古銭は千葉県内では初の発見例であり、この地域と都との関係性を窺い知ることができる。							

市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第59集  
稲荷台遺跡(R地点)・市原古道遺跡

令和5年3月17日 発行

編集 市原市埋蔵文化財調査センター  
千葉県市原市能満1489  
TEL 0436(41)9000

発行 株式会社D-1  
市原市教育委員会  
千葉県市原市国分寺台中央1-1-1  
TEL 0436(22)1111

印刷 三陽メディア株式会社 市原営業所  
千葉県市原市五井東3-47-10  
TEL 0436(22)4348